

# IRC 発展を目指した、 【デンマーク、早稲田大、APU】の 国際寮実態調査

中央大学文学部人文社会学科哲学専攻 2年

23E3132001G 折出実優

○採用コース：Bコース（支給額：20万円）

○活動場所：①The Tietgen Residence Hall（デンマーク・コペンハーゲン）

②Waseda International student House（東京都中野区/早稲田大学）

③APハウス（大分県別府市/立命館アジア太平洋大学）

○追加活動場所：④中央大学国際教育寮（東京都八王子市/中央大学）

⑤H VILLAGE（神奈川県藤沢市/慶應義塾大学）

⑥AI- House（東京都北区/東洋大学）

○活動期間：①Tietgen→2024/11/01～06

④IRC→2024/12/05

②WISH→2024/11/12

⑤H VILLAGE→2025/02/05

③APU→2024/11/24～26

⑥AI-House→2025/02/06

## 目次

1. 活動目的
2. 中央大学国際教育寮の説明、課題など
  - ・中央大学国際教育寮とは
  - ・IRC 内の組織図
  - ・IRC で出てきた課題 (1) イベントにおける課題 (2) 美化における課題
3. 活動報告
4. 活動全体を通しての感想

## 1. 活動目的

私は 2024 度から中央大学国際教育寮（以下、IRC と記述する。）で生活しており、2 年目となる今年度は、イベント運営を行う部門の RA 長（レジデントアシスタント／寮生が充実した寮生活を送れるように寮全体のサポートを行う役割。）として活動している。また今年度は寮長を置いていないため、RA 長が寮長と同じ立場として寮運営を進めていく。開設 5 年目となる今年度は寮生は過去最多の 230～240 人前後であるが、寮生の増加に伴い寮内で様々な問題（美化→キッチンのゴミ分別問題、私物放置問題、使用した食器を洗わないなど／イベント→240 人近い寮生を取りまとめられるイベントのノウハウがない、寮生が多すぎて、誰もが楽しめるイベントを提供できているか不明、など）が噴出している。現在 IRC が抱えている問題の解決を目指すこと、また全寮生が自分の居場所だと感じられる寮を作り上げることは RA 長の使命でもあると考えている。そのため、日本国内と海外の国際寮から寮の運営方法などを学び、実際に現場を訪れて学んだことや感じたことをこれからの IRC の発展のために生かしていきたいと考えた。

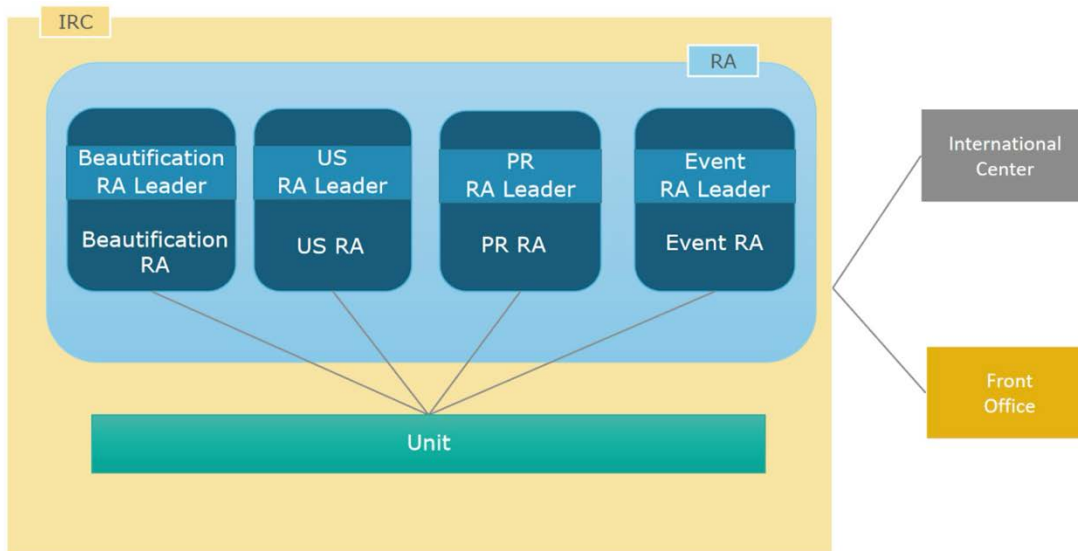
## 2. 中央大学国際教育寮の説明、課題など

### ・中央大学国際教育寮とは



2020 年 4 月に開設された、中央大学が管轄している国際教育寮。International Residence Chuo の頭文字をとり、寮生間では IRC（アイアールシー）という略称で伝わる。定員は 300 人。2024 年度は約 240 人が在籍し、2025 年度は 280～290 人までさらに寮生が増える予定。寮生の約半数が留学生である。半年や 1 年間中央大学に勉強しに来た交換留学生だけではなく、韓国や中国などから 4 年間中央大学に通う私費留学生も多くいる。

・ IRC 内の組織図



(図は IRC の RA 作成)

・ IRC で出てきた課題

私が 1 年間 RA 長として感じた課題は、主にイベントと美化の観点からである。

(1) イベントにおける課題

昨年度までは寮生数 160 人程度だったが今年度から一気に増加し、寮生数は 230～240 人程度になった（交換留学生の出入りなどで多少の変動はある）。そのため、200 人を超えてのイベント開催のノウハウがなく、そもそも 240 人近い寮生が参加できるイベントがどのようなものなのかわからなかった。また、寮生が多すぎるため、参加者誰もが楽しめるイベントを提供できているのか不明だった。

なお、私が 1 年間イベント RA として活動してきたことは以下のスライドを参照してほしい。

(2024 年度に行ったイベント活動報告/筆者作成)

[https://drive.google.com/file/d/12iyD4\\_puiMGEhdw-B0X263fDo6BfiWty/view?usp=drivesdk](https://drive.google.com/file/d/12iyD4_puiMGEhdw-B0X263fDo6BfiWty/view?usp=drivesdk)



(2) 美化における課題

IRC の共有キッチンには三角コーナーが設置されており、三角コーナー使用後は自分で三角コーナーの水切りネットの交換をするルールがあるが、それをそのまま放置していることで特に夏場はコバエが発生する。また、使用した食器を洗わずにそのままシンクの中に放置したり、私物をキッチンや共有スペースの机の上に置きっぱなしにしている。



(共有キッチンの様子)

### 3. 活動報告

<活動場所 1ヶ所目>

The Tietgen Residence Hall デンマーク、コペンハーゲン

(以下、Tietgen と記述する)

<大体のスケジュール>

2024/11/01 (金) 羽田空港からコペンハーゲン国際空港へ

2024/11/02 (土) コペンハーゲン観光

2024/11/03 (日) スウェーデンへ

2024/11/04 (月) デンマークの学生寮 Tietgen 見学

2024/11/05 (火) コペンハーゲン国際空港から羽田空港へ

2024/11/06 (水) 羽田空港着

<日にちごとの詳細なスケジュール>

・1日目 11/01 (金)

09:55 (日本時間) ~15:30 (日本時間の 23:55) 羽田空港からコペンハーゲン国際空港へ飛行機で移動

到着後、コペンハーゲン空港からホテルの最寄り駅まで電車で移動

チェックイン、就寝

・2日目 11/02 (土) ※以下、現地時間で記入する

5:30 起床

1日コペンハーゲン市内観光

19:30 就寝

・ 3 日目 11/03 (日)

5:30 起床

コペンハーゲンから近いスウェーデンへ電車で移動

スウェーデン観光

19:30 就寝

・ 4 日目 11/04 (月)

5:30 起床

Tietgen に徒歩で移動

10:00～11:00 Tietgen 見学

Tietgen から徒歩で一度ホテルに帰宅

午後はコペンハーゲン市内観光

20:00 就寝

・ 5 日目 11/05 (火)

6:00 起床

チェックアウト後、ホテルから空港へ移動

11:20 (現地時間) ～ デンマークから羽田空港へ飛行機で移動

機内泊

・ 6 日目 11/06 (水)

7:55 (日本時間) 羽田空港着

その後、IRC へ帰寮

<Tietgen 特徴>

- ・ 2006 年オープン→今年で 20 年目
- ・ 世界一の学生寮と呼ばれている。
- ・ 入寮希望が絶えないため入寮条件は厳しく、自分の強みをしっかり持ち、個性的な学生が集められる。

<活動場所選考理由>

IRC は日本にある国際寮だが、海外にある国際寮も見て、日本の国際寮と比較検討したいと思った。海外の国際寮を調べていく中で Tietgen が「世界一の学生寮」と言われていることを知り、世界一の学生寮とはどのような寮なのか知りたいと思ったから。

<活動報告 ※1 日目から順に記入>

- ・ 1 日目



↑①つけ麺



↑②Copenhagen Central Station



↑③夜のチボリ公園

羽田空港を 9:55 に離陸し、そこから約 13 時間半かけデンマークへ向かった。離陸前に羽田空港で六厘舎のつけ麺 (①) を食べたのだが、これほどおいしいつけ麺を食べたことがなく、今でもその味が忘れられない。

デンマークの時差は日本 - 8 時間のため、デンマークに着いたのは 15 時半であったが、日本時間ではすでに夜中の 0 時近い。着陸後コペンハーゲン国際空港から電車に乗り、Copenhagen Central Station (②) で降り、これから 4 泊する Cabinn

Copenhagen に向かった。私は初めてヨーロッパに来たが、Copenhagen Central Station はまるでハリポッターに出てくる駅のように驚き（ハリポッターシリーズは本を読んだことなく、映画も見たことはないが）、一気に「ああ、自分はヨーロッパに来たのだな」と思い感動した。その日は時差ボケで異常に眠かったため、一緒に行った母親が持ってきてくれた日本食を簡単に食べ、すぐに就寝した。

## ・2日目



### ←④朝焼け

現地時間の6時ごろに起き、その日の予定を母と立てた。その日はコペンハーゲン市内を回ってみようということになり、朝食を簡単にとった後ホテルを出発した。ホテルは川沿いにあったため、まずは川沿いを歩いてみたが、向こう岸にある洋風の建物が水面に映り、さらにちょうど朝日がさしてとても綺麗な風景だった。



↑②The Christiansborg's Tower



↑③町なみ



↑④馬

まずは The Christiansborg's Tower (②) に行った。朝早くに訪れすぎたのか、カフェもまだ閉まっていて外観を見ることしかできなかったが、ザ・西洋といった感じの建物だった。その後ずっと歩いて行くと何やら観光客がたくさんいるスペースにたどり



着いた。皆写真を撮っているから何を見ているのかと思ったら、カラフルな建物とそれが川の水に映る様子 (③) だ。一言、綺麗だった！写真を撮ったスポットの近くでナッツの入ったアイスクリームとワッフルを食べたのだが、それぞれ1,000円だった。アイス1つ1,000円という物価の高さに本当に驚いた。さらに歩いて世界3代がっかりの人魚姫の像 (⑤) を見て、カステレット要塞 (⑥) を見学した。カステレット要塞の永遠に同じ建物が続くところが「ビバリウム」というホラー映画に似ているような気がした。その後はちょうど紅葉が綺麗だった王の庭と呼ばれる公園 (⑦) を散歩し、ホテルの方に戻りつつコペンハーゲンを散策した。コペンハーゲン大学 (⑧) の横を通ったり、いろいろなお店を見たり、ホットチョコにチュロスをつけて食べたりと、コペンハーゲンを満喫した1日だった。

↓⑤人魚姫の像

↓⑥カステレット要塞

↓⑦王の庭

↓⑧大学



・ 3 日目



↑⑨マルメー周辺



↑⑩公園の風車



↑⑪軽食販売

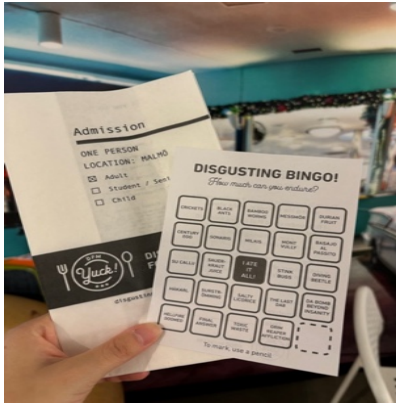
この日はコペンハーゲンから電車で1本、40分くらいで行けるスウェーデンのマルメー(⑨)に行った。デンマークとスウェーデンは隣国だが、違いはいくつもあった。まずは文字。デンマーク語は英語と似ているものもあり、デンマーク語がわからなくても道にある看板からなんとなく意味を推測できる。しかしスウェーデン語は英語とはかけ離れていて全くわからなかった。また、デンマークに比べ風が強かったり、物価はデンマークよりも安かったりした。デンマークは物価や家賃が高いのでスウェーデンに住んで、スウェーデンからデンマークに働きに来る人も多いという。ヨーロッパ内の隣国だがこれほど違いがあることに驚いた。

駅から歩いていくと Kungsparken という、風車(⑩)のある大きな公園があったので散策した。犬を連れて散歩している人が多かったから、犬の散歩コースなのだろう。さらに公園内にはクッキーやコーヒー、マフィンの売っている小さな屋台(⑪)のようなものがあった。とてもおしゃれで母がコーヒー1杯、私はビスコッティとクッキー1枚を買ったが、会計してびっくり、それで合計2,000円近くいってしまった。やはり円安の影響は恐るべし。



←⑫マルメー市図書館

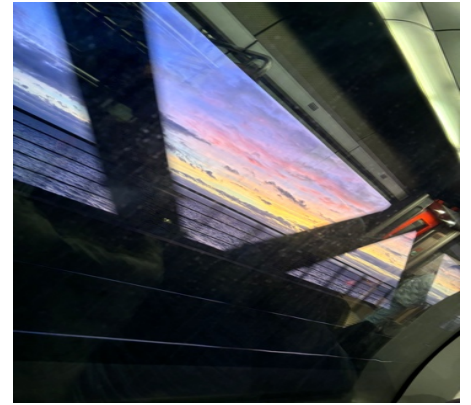
マルメーにあるマルメー市図書館に行ったのだが、そこがさすが福祉国家スウェーデン、子供向けに充実した図書館だった。子供コーナーはただ子供向けの本が置いてあるだけではなく、お絵描きコーナーや探検をイメージさせる室内、そのほかにも食事ができるコーナーや電子レンジ、給湯器まであった。子供づれの家族でも本当にそこで1日中過ごせそうなほど充実していた。子供コーナーだけではなく、一般書コーナーも本が自由に読めるスペースやコンピューター機材も充実していた。



↑ ⑬入場券



↑ ⑭展示



↑ ⑮夕焼け

その後、スウェーデンに行くなら絶対に訪れてみたかった「Disgusting Food Museum」に行った。ここは世界中から集められた、いわゆる「気持ち悪い、まずい」食品が集められている。受付でエチケットバッグとビンゴ用紙（⑬）を渡され、それを持ってまずは展示（⑭）を見ていく。日本からはふぐ（毒があり危ない食材として紹介されていた）や納豆が展示されていた。そのほかの国も見ていくとアメリカはカロリーの高い食品が多く、中国は珍味が多かったりと、国によって様々な傾向があることに気がついた。展示の後は実際に試食コーナーがある。ヨーロッパの臭いチーズやコオロギなどの虫も試食でき、それを全てコンプリートした人は最後に辛いデスソースにチャレンジすることになる。デスソースを舐める時は「この後腹痛など体調が悪くなくても訴えませんが」と誓う紙にサインをすることになる。私は虫を食べるのが本当に気持ち悪かったがなんとかクリアし、結局デスソースも全てクリアしてしまった。まさか自分が最後までクリアできると思い込んでいなかったのが驚いた。全てクリアできると最後にルーレットを回し、止まったマスの景品をもらえる。私は「yuck」と書かれた黒いTシャツをゲットした。普段外出するときに着ることはできないが、部屋着にはなるかもしれない。異国の地で展示会を見るという、自分にとってなかなかハードルの高い経験だったが、同じく展示会を見ていた人が「味はどう？」などと尋ねてくれ、日本では決して経験できないだろう、とてもおもしろく貴重な時間だった。

口の中が気持ち悪いなあと思いながらも、今度は様々なジャンルの店の集まったスウェーデンの街を散策した。店を見ていたのだが何よりも閉店が早かった。どの店も16:00には閉まってしまうようだ。その後16時以降も空いているスーパーに行き、量り売りの惣菜を買ってコペンハーゲンに戻る駅に向かった。電車に乗っている時はち



ようど夕焼け (⑮) の綺麗な時間帯だった。スウェーデンや特にデンマークは自転車社会だ。歩道と同じように自転車専用通路が整備されており、電車にも自転車を乗せられるスペースがある。デンマークでも車道を通る車よりも圧倒的に自転車が多かった。ホテルに着き、スウェーデンで買って来た惣菜を食べた後に就寝した。

・ 4 日目



←⑯Tietgen 外観

今日はいよいよ寮見学の日だ。ホテルと寮はそれほど離れていなかったの、歩いて寮まで行った。ネットで寮の外観は見ていたが、特徴的な外観のためマップも必要なくすぐに場所はわかった (⑯)。ネットで見ていたよりもコンパクトな寮だったことにまず驚いた。約束の 10 時が近づくとつれて、私は心臓がバクバクだった。全て英語でやり取りされる見学会で自分が聞きたいことを聞くことができるのか、そもそもちゃんと予約できているのか不安だっ

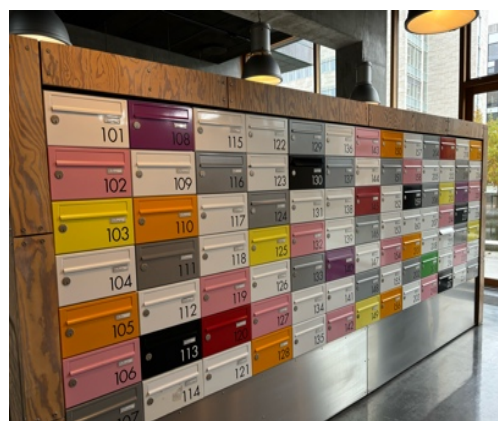


た。

↑⑰レゴ



↑⑱銅像



↑⑲カラフルな郵便ボックス

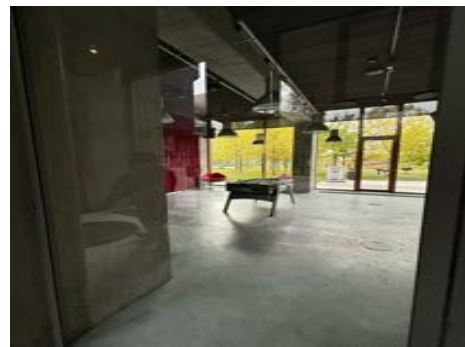
Tietgen は⑱の写真の人が設計し、寄付金をたくさん集めて建てられたようだ。  
Tietgen は円形になっており、円の中の部分は中庭、1階は郵便ボックスや駐輪場  
(⑳)、洗濯スペースがある。郵便ボックス (⑲) がカラフルなのが目を引くが、これ  
はただでさえ陽が当たりづらく暗くなりがちな1階であえて明るい色を使うことで、  
1階を少しでも明るくしようとする意図があるらしい。



↑ ⑳駐輪場



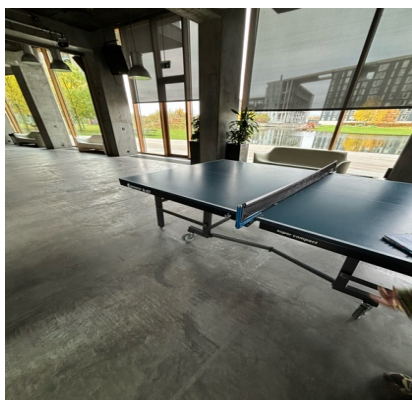
↑ ㉑技術室



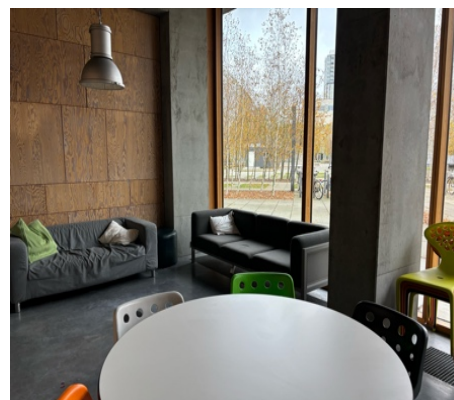
↑ ㉒イベントルーム？



↑ ㉓ボードゲーム



↑ ㉔卓球台



↑ ㉕コミュニティルーム

1階には生活に必要なスペース以外に、利用料金がかかるが技術室 (㉑) があつたり、卓球台やボードゲーム (㉓㉔)、音楽室などがあつた。㉒の写真の部屋は奥にミニキッチンがあるため、その部屋を使って即席のバーを作ったりしたそう。1階だけでも行動にたくさんの選択肢が与えられる。この研究をするときに IRC の FO (フロントオフィス/IRC の寮生の生活をサポートする、寮母的な役割をする部署で IRC 内にある) からは「娯楽スペースがあるか見てきてほしい」と言われていた。なぜ娯楽ス

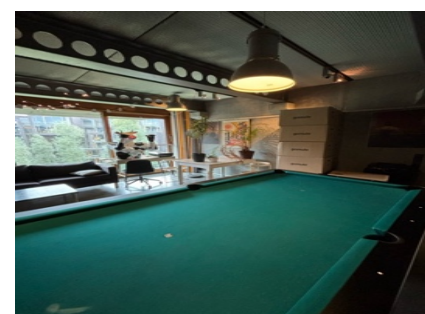


ペースにこだわるのかその時はわからなかったが、Tietgen を見て、娯楽スペースがあると寮生の行動の幅が広がることに気づいた。Tietgen の寮生は寮に娯楽スペースがあるからこそ、そこで即席バーのイベントを開いたり、イベントという形でなくても他の寮生と遊びを通して交流を深めることができるのだ。たしかに寮には生活する場所としての快適さも必要だが、行動を狭めないための娯楽スペースも豊かな生活には必要なのだと気づいた。



←②⑥駐輪場近くの壁

1階駐輪場近くにあるこの壁(②⑥)、これは日本の芸術を模倣しているらしいが、何がベースになっているのかはわからなかった。しかし日本から遠く離れた学生寮で日本の芸術が使われているのはとても不思議な気分だった。



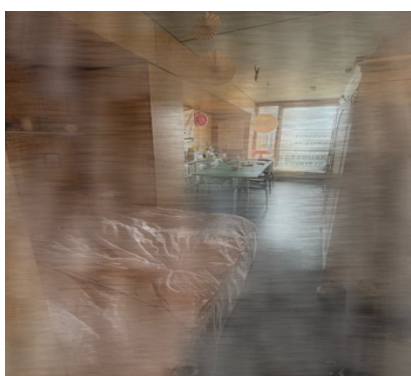
↑②⑦居住スペースから見える中庭②⑧↑ ↑②⑨キッチン

↑③⑩遊びの部屋

次に、案内してくれた寮生が生活している居住スペースに行った。彼女が住んでいる部屋は4階だったため眺めがよかった(②⑦②⑧)。学生寮とは思えないほどおしゃれなキッチンとダイニング(②⑨)があり、そのスペースは1チーム13人程度の寮生で使うようだ。Tietgenの特徴として、数種類ある部屋の大きさや作りから、自分が生活したい部屋を選べるのだ(部屋の大きさによって家賃は変わってくる)。大きな窓とバルコニーがある部屋やダブルベッドが置けるほどの広さの部屋、カップルで暮らせる部屋など、バリエーションは多岐にわたる。十人弱の寮生で一つのキッチンとダイニングを使うのだが、壁には思い出の写真が貼ってあったり、窓際には大きなソファやハンモックまで置かれている。学生寮であることを忘れてしまうくらいおしゃれな部屋だった。同じキッチンを共有する寮生の交流を深めるために、毎週火曜日(もしくは週に2回程度?)は夕食を皆で作って皆で食べるという。準備や後片付けも分担して進め、同じ時間を共に過ごす。同じグループの寮生同士で何か問題が起こった場合はど

うするのかと質問したところ、「まずはとにかく話し合う」と答えてくれた。何事も対話を大切にしている姿が伝わってきた。そこで私は、「共通言語が同じことが学生寮では大切か?」という質問をした。IRC や、特に英語を専門としない大学の国際寮では日本語を学びたい寮生と英語を学びたい寮生がいるため、寮内では2つの言語が使われる。日本人の私にとって英語でのコミュニケーションは難しく、それは留学生にとっても同じことが言え、特に交換留学生は日本語のコミュニケーションは難しいだろう。主要な言語が2つ存在すると、寮生全員で話し合うことや寮生全員の情報理解の差が出てくる。しかし英語ならばそれが楽に行えるのではないかと思ったのだ。回答は、必ずしも共通言語が英語であることが重要ではないらしい。彼女の以前のグループメンバーが中国からの留学生で、彼女は英語がそれほど話せなかったようだ。しかしボディランゲージや身振り手振りを使い、なんとかコミュニケーションを取っていたようだ。今まで相手が英語を話せないから、日本語を話せないからといった理由で相手との親密なコミュニケーションを最初から諦めてしまっていたかもしれないと思った。語学力よりもとにかく相手に伝えたい、理解したいと思う気持ちが重要なかもしれないと気づいた。

ダイニングを出ると、その隣には遊びの部屋 (30) があった。ビリヤードの台が置かれていたり、牛の置物は以前イベントで使ったもので、これもグループメンバー皆で手作りしたのだという。牛をどのように使ったのかは謎だったが、さまざまなタイプの部屋をとにかく自由に使っている様子が窺えた。



↑ 31 個室



↑ 32 個室の窓から見える景色



↑ 33 中庭

最後に、彼女の個室 (31) に案内してもらった。彼女の部屋はかなり広く、個人情報の関係上、ここでは個室の写真には薄くモザイクをかけている。写真には写っていないが玄関入って左側にトイレとバスルームがある。大きなベッドと机があり、奥に進むにつれて開放的な窓が近づいてくる。彼女がこの部屋を選んだ決め手は、この部屋には壁から半分飛び出たスペース (32) があり、そこで外を見ながらゆっくりできる

ことと、収納スペースがたくさんあることだったらしい。半分突き出たところにソファを置いているから、実際に寮の外で浮いているのではないかと錯覚した気分になる。窓を開けて新鮮な風を感じながらコーヒーを飲み、外を眺める時間は最高にリラックスできるという。彼女の部屋もまた、寮だとは思えないほどのおしゃれさや様々な施設の工夫によって、より生活の質は上がるのではないかと感じた。もう1つのプラスな面として、収納がたくさんあることを挙げていた。③①の写真の右側にはクローゼットのような収納スペースがあったり、ベッドの上にある壁より突き出した部分も全て収納だという。そこに冬服や冬に使うスキーグッズなどを収納できることが彼女にとってプラスに働いているようだ。寮見学も終盤に差し掛かり、ラストは「この寮に住むいちばんのメリットは何か」という質問をした。それに「共有スペースで何か面白そうなことなどがあった時に飛び込んでいけるような環境にあること」と答えてくれた。それぞれのメンバーの部屋を回ってお酒を飲むゲームをしたりしたこともあるようだ。メンバーが共有スペースで何かしていたら「何してるの?」と飛び込んでいける環境にあることが楽しいという。つまり交流できることに楽しさを見出しているようだ。案内してくれた彼女は本当に寮生活を楽しんでいる様子が伝わってきた。



↑ ③④ 建築の様子



↑ ③⑤ 近くにある大学



↑ ③⑦ 学食

寮見学の後は Tietgen の近くにあった大学 (③⑤) に行ってみた。大学には食堂があり、そこでは学生でなくても自分が食べたいものを注文して食べられる。今回はチリコンカーンのようなもの (③⑦) を食べた。豆がベースで米はついてなく、これで満腹になるのか不安だったが、ボール1杯分で十分お腹いっぱいになった。





昼食の後はホテルに帰る道中に寮の周り (38) に何があるのかを見ながら帰った。そもそも坂の少ないコペンハーゲンには平坦な道が多く、また寮の近くにはスーパーもあった。

←38寮の周りの様子



↑39駅の裏側の街

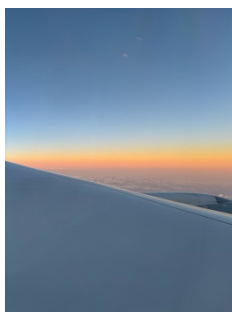


↑40お店の内装



↑41デンマーク料理

ホテルに一旦帰った後、いつもは駅から川に向かって、チボリ公園のある方面にしかいったことがなかったが、この日は駅の裏側の街 (39) を探検してみた。駅の裏側もメイン通りなのではないかと思うほど店が多かった。そこでお店を見てまわった後、母がずっと食べてみたいと言っていたデンマーク料理を食べに行く (40) ことにした。私が注文したのは肉にソースのかかっている、手前側のお皿の料理 (41) だ。これを付け合わせのジャガイモときゅうりで食べるらしい。ソースは日本のケチャップなどとは全く味が違って、野菜などがベースになっているのかとてもさっぱりしたソースだった。日本ではこのようなメイン料理と白米と一緒に食べることが多いが、付け合わせのジャガイモと一緒に食べたことはなく、白米でなくジャガイモとメイン料理を食べるという経験は新鮮だった。



・5日目

今日は 11:55 のフライトだったため、起床してすぐに空港に向かい、成田行きの飛行機に乗った。

←42飛行機から見える朝焼け

## ・6日目

日本時間の朝 7:55 に成田に着いたため、そのまま電車で IRC まで帰った。今回初めて 12 時間超えのフライトを経験したが、十分に身動きできない機内で長時間座っているのはかなり大変だった。デンマークでの研究中は時差ボケがひどく、現地時間で朝早く起きて夜早く寝るといふ、日本にいたら到底考えられないような健康的な生活をしてきた。日本に帰国後も時差ボケは治らないのかと思っていたが、逆に帰国後はデンマーク時間よりも日本時間の方が遅れているためすぐに治った。

### <Tietgen まとめ>

- ・ある特定の大学が管轄している学生寮ではなく、様々な大学に通う学生が Tietgen で生活している。そのため、IRC のような RA 制度などはないが、完全に学生主体で寮生活している。

- ・建物のいちばんの特徴は窓の大きさ。どの階も窓が大きく、もちろん各個室も窓が大きい。窓が大きいことで陽がしっかりと差し込み、建物の雰囲気全体が明るくなる。

→Tietgen を見学するまでは、寮の窓の大きさに注目したことなどなかった。たかが窓、されど窓、陽が入るか入らないかで寮内のイメージが明るくなるか、それとも暗くなるのか変わってくることに気がついた。

- ・ただ住むためだけの場所として寮が提供されているのではなく、より幸せに暮らすために部屋のスタイルが選べたり、娯楽ルームがあったりした。生活の質をいかに向上させるかが重視されているような気がした。

- ・グループメンバー内で何か問題があった時にまずは対話で解決しようとしている様子が伝わった。

・世界一の学生寮と言われる理由はもちろん建築の美しさもあるだろうが、自分の生活スタイルなどに合わせて自由にカスタマイズできる Tietgen の自由さが理由ではないかと思った。



<活動場所 2ヶ所目>

早稲田大学国際学生寮 Waseda International Student House

(以下、WISH と記述する。)

<活動日>

2024/11/12 (火)

<IRC からのアクセス>

中央大学・明星大学駅～立川南駅 (多摩モノレール)

立川駅～中野駅 (JR 中央線)

中野駅から徒歩 15 分程度

<当日のスケジュール>

8:00 IRC 出発

9:12 中野駅着

9:30 WISH 着

9:30～10:00 WISH 見学

10:00～11:00 WISH の RA と交流会、その後解散

<活動場所選考理由>

WISH からは美化とイベントの両方から学べると思った。美化の観点では、WISH は IRC と同じく共有キッチンを持ち、定員数 800 人以上寮生がいる中でどのようにキッチンを利用したり清潔に保っているのか、またゴミ問題や私物放置の問題をどのように解決しているのか知りたいと思ったからだ。その他にも、WISH のホームページには宿泊イベントや清掃イベント、小学校訪問など、地域と密接に交流している様子が伝わってきた。IRC はまだ地域交流イベントを開催したことがないが、地域に根ざし

た交流やイベントをどのように作り上げているのか学びたいと思った。また、たくさん  
の寮生がいる WISH で全体イベントはどのように開催しているのか、イベント開催  
のノウハウを知りたいと思ったから。

#### <WISH の概要>

- ・ 2014 年 3 月オープン→2025 年で 12 年目に突入する。
- ・ 定員数は 872 人で、日本最大級の規模である。
- ・ 食事はついていない。
- ・ RA が寮生のサポートを行う。

以下のリンクは、IRC から WISH へ事前に送った質問一覧である。

<https://drive.google.com/file/d/1IIU2pLF6sjzFaDVE2Y3jOeK05mvb1nFs/view?usp=drivesdk>

#### <活動報告>



寮内設備、交流会、周辺施設の順に記述していく。

中野駅から約 15 分、平坦な道をずっと進んでいくと WISH にたどり着いた。坂がないため、駅からも寮周辺もとても歩きやすい道だった。てっぺんまで見上げるのが大変なくらい大きく、高い建物だった。高さだけではなく、もちろん横にも大きかった。

←①WISH 外観



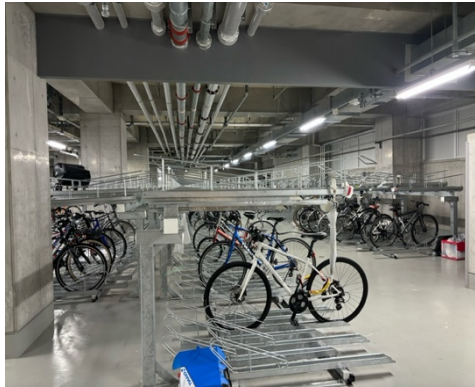
↑②エントランス



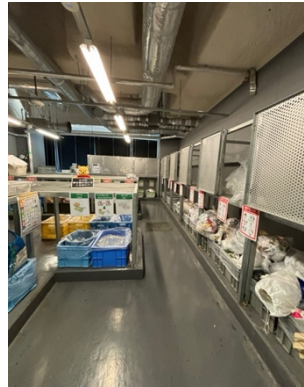
↑③壁一面に貼られた掲示物

WISHのエントランス(②)は螺旋階段があり、ホテルのロビーなのではないかと思うくらいおしゃれだった。しかし寮らしさを感じさせるのは、今までに開催したイベントの写真を貼った掲示物(③)だ。これは全てRAが作っているのだという。IRCにはこのようなイベント紹介などの掲示物はない。このような掲示物をIRCでも作れば、寮生がいつでもイベントを振り返ることができ、寮生もイベントを身近に感じられるのではないかと思った。また、今までの活動がこのように形に残り、視覚的にいつでも確認できることでイベントに携わってきたRAのモチベーションアップに繋がったり、寮生の保護者や見学に来た外部生にもIRCが何をしているのか理解しやすくなったりするのではないかと思った。IRCでもこのような掲示物を作りたい。

螺旋階段を登ると窓口(これは国際寮担当の大学職員のオフィス?)があったが、その窓口の前を寮生が通り過ぎる時に、オフィスの人がいつも「行ってらっしゃい」「おかえりなさい」と寮生に声をかけていた。IRCでは見たことのない光景のため(IRCのFOは1つの部屋として完全に区切られていて、スタッフに声をかけるにはベルを鳴らして呼び出さなければならない)とても驚いたが、実家のような声かけがよいと思った。そのような声かけがあるかないかで、寮の「ホーム感」が変わってきそう



↑④駐輪場



↑⑤ゴミ庫

駐輪場（④）に案内してもらった。駐輪場にはウーバーイーツのリュックがたくさん置いてあり、配達員として働いている寮生も多いのではないかと勝手に予想した（寮の周りが平面だから配達はしやすそう）。やはり寮生が900人近くいるため駐輪場も広く、自転車を所有している寮生も多いのだろう。WISHは駅からもキャンパスからも少し離れているため、徒歩での移動はもちろんできるが、自転車での移動も楽だと思う。

次にゴミ庫（⑤）に案内してもらった。ここでいちばん驚いたことは、WISHは飲酒ルールがものすごく厳しいということだ。寮内では完全禁酒、もちろん未成年飲酒にも目を光らせているが、ゴミの中に酒の缶が出てきた時点でアウトだという。また、料理で使うみりんや料理酒の使用も禁止されており、寮生はそれらの酒を含んだ調味料を所持していることもできない。IRCとは比べ物にもならないくらい飲酒ルールが厳しくて驚いたが、寮内で起こる飲酒トラブルを完全に無くすためにはWISHくらい厳しく、徹底したルールを作らなければ難しいのかもしれない。

↓⑥スポーツルーム ↓⑦音楽室



↓⑧軽食の自販機

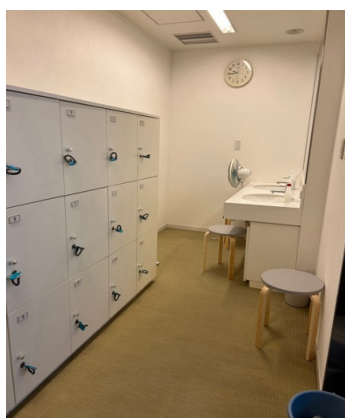


↓⑨両替機





WISHには娯楽ルームもしっかりと完備されていた。卓球台やエアロバイク、マットも置かれたスポーツルーム(⑥)や完全防音の音楽室(⑦)も完備されている。音楽室に置かれているピアノは一定の周期で外部業者に調律してもらっているらしい。ただピアノが置かれているだけではなく、ピアノのケアまで行っていることに感心した。館内を見学して、WISHにはあったら少し生活が便利になるものが多く置かれていると思った。たとえば軽食の自販機(⑧)。小腹が空いた時にわざわざ寮外に買いに行かなくても寮内でお菓子が手に入ってしまう。そのほかにも私のイチオシは両替機(⑨)だ。国際寮の洗濯機は1回回すのに100~200円かかることが多く(IRCは1回200円。寮生からは値下げの声が多く上がっている)、また洗濯機を回すために小銭を集めなければならない。IRCの寮生は皆100円玉貯金をしてるのではないだろうか。入寮前のオリエンテーションや資料で「100円玉貯金をしましょう」と伝えられるほど、私たちの生活ではどうしても100円玉が必要になる。IRCには両替機がないため、もし洗濯機を回したい時に100円玉がなければ誰かに両替してもらうか、自販機やコンビニで何かを買ってお金をくずす、もしくはOKストア(IRCの最寄駅から1駅先の大塚・帝京大学駅周辺にある、IRCからいちばん近いスーパー)まで行って、そこにある両替機でお金を崩さなければならない。寮内に両替機さえあればその煩わしさは全て解決される。実際IRCの寮生からも「両替機がほしい」という声が多数上がっているため、IRCで両替機は「あったらいいな」と思う物の1つである。



↑⑩共有浴室の脱衣所



↑⑪浴室内

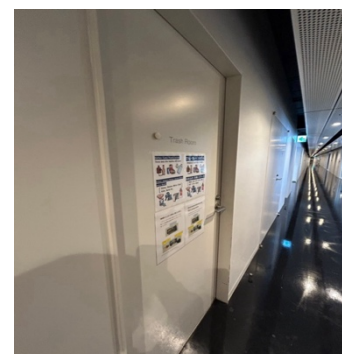
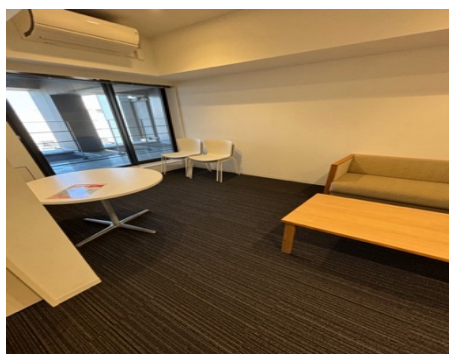


↑⑫エレベーター表示板

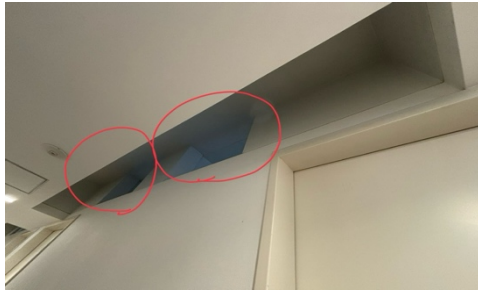
WISHにもIRCと同じように大浴室(⑩、⑪)がある。コロナで閉鎖していたが、特に運動部所属の寮生から浴室利用の声が相次いだため、利用を再開したらしい。

WISH はフロアごとに男女の住居スペースが分かれているため、エレベータも男女別で分かれている。⑫の写真はエレベーターの案内表示だ。もとはこの案内表示にも男性、女性という語が含まれていたようだが、世の中が多様な性のあり方を当たり前と思う風潮が出てきてから、表示から男性、女性という語がなくなり、フロア表示のみになった。私が WISH のすごいところの1つだと思うのは、WISH はとにかく LGBTQ や多様な性のあり方に配慮した国際寮になっていることだ。たとえば女子トイレは女性を連想させるスカートのマークが書かれることが多いが、WISH にはそのような性別を意識させるようなマークは1つも見つからない。もとはそのようなマークがあったようだが、時代に合わせ、壁を塗り替え、今は性別を感じさせないような表記になっている。

↓⑬各ユニットの共有スペース（外から） ↓⑭13と同じ（内から） ↓⑮居室フロア



住居フロアのモデルルームに案内してもらった。居室を一言で表すならばホテルみたい（⑭）だった。4人で1グループになっており、ユニットは全てガラス張り（⑬）だ。また各フロアにあるキッチンもガラス張りのため、各ユニットはガラスで区切られてはいるものの、寮生が生活している様子は見える。各フロアはエレベーターとキッチンを中心に左右に、横に細長い感じで居室が連なっている（⑮）ため、外出するときは必ずキッチンの前を通らなければならない。このような構造やガラス張りにすることが寮生の交流を促すことにも繋がっていると思う。



↑⑩個室の壁の空洞

居室に案内してもらって私がいちばん驚いたことは、各個室の上の部分（赤丸で囲んだ部分）が空洞になっている（⑩）ことだ。これは設計ミスではなく、①空気の循環、②光も音も漏れることで個室をあえて生活しにくい環境にし、個室の外に出てくするように促す、という2つの理由がある。たしかに寮は寮生間の交流も大切で、個室が快適すぎると寮生は自室から出てこなくなるため、交流を促すためにあえて快適とは言い難い生活空間を作り出していることは理解できる。しかし寮生の生活スタイルはバラバラだ。朝型タイプも夜型タイプもいる。このように壁に穴があいていたなら、自分が発する音や光でユニットメイトに迷惑をかけないように慎重にならなければいけなくなるだろう。常に気を配らなければいけない状況が余計寮生をストレスフルの多い生活に追いやってしまっていないのか疑問に思った。



↑⑪⑫共有キッチン

キッチン（⑪⑫）は白を基調としたおしゃれな空間で、この写真には写っていないが大きな窓から光がさしてとても明るい印象を与えている。IRCではキッチンに共有の皿や調理器具が置いてあるが、WISHは共有の調理器具は一切なかった。交流会でWISHのRAに「IRCでは共有の調理器具の紛失がよく起こるが、どのように管理す



ればいいか」と尋ねたところ、「費用がかかるかもしれないが、使用前と使用後に学生証をピットして、誰がその調理器具を使ったのかデジタルで完全に管理する。もしくは共有で使える物を置かない」という回答だった。たしかに IRC では共有の調理器具を置いているからこそ、調理器具の数が減ったという問題が起こるのであり、それをなくしてしまえば全て解決できる。それか完全管理型にするかだ。共有の調理器具を完全撤去した場合、短期間だけ滞在する留学生にとって、留学先でわざわざ調理器具を買わなければいけないのは負担になるだろう。だからこそ、費用の問題は絶対に生じるだろうが、いちばんの理想は完全管理型にしてしまうことだと考えた。(ただ、デジタルで完全管理できるデバイスを導入したとしても、学生証をピットせずに調理器具を使う人が出るという問題が次に生じそうだ。もはや寮生のモラル意識を高めるしかないのかもしれない)



←⑱フロアから見える景色

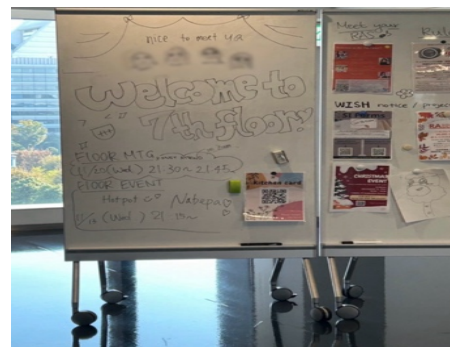
とても眺めがよい！



↑⑳RA 作成の掲示物



↑㉑エレベーター内の RA 紹介



↑㉒ 20と同じ

館内を案内してもらって思ったことだが、WISH は寮生の生活に RA がとても身近な存在であることがよくわかった。IRC でも RA の顔や活動内容を寮生にいかに認知してもらおうかが課題になっているが、そのための取り組みはまだ不十分だ (IRC では共有スペースの一角に RA 紹介ポスターが貼られているだけだ)。一方で WISH では、エレベーター内や各フロアに RA 紹介ポスターや RA の活動報告ポスターが貼られていたり (㉑㉒㉓)、寮内のデジタルサイネージで RA 紹介が流れていた。日常の中で何気



なく RA 紹介が目に入っただけだとしても、寮生にとっては RA として誰が、どのように活動しているのか、知っているのと知らないのではかなり違うだろう。IRC も RA の認知度を高めるために、共有スペースの一角の RA 紹介だけではなく、まずはエレベーターなどにポスターを貼ることから始めてみたいと思った。

<交流会>交流会は IRC から WISH へ事前に送った質問と、WISH から IRC に事前に送ってもらった質問をもとに意見交換を行った。時間短縮のため、WISH の職員が IRC からの質問に事前に回答できる範囲は回答してくれた。以下の 3 枚の画像の青文字は、WISH 職員が事前に回答してくれたものだ。

- ・現在の学生数 →定員872名(正確なデータは非公開・現在の入居率 90%弱 程度)
- ・男女比 →男子：4フロア（3階～6階）、女子：5フロア（7階～11階） 1フロア約90名
- ・国籍比 →約3～4割が留学生（春と秋学期で異なる）

・IRCは現在「安心安全な学生寮」として国際センターが広報してしまっているが、WISHさんほどのように寮を広報しているのか。

→ 他の学生寮にはない寮内教育プログラムがあるため、「教育寮」を強調することが多いですが、

「安心安全な学生寮」はWISHでも同様にキーワードにしています。特に、隣が東京警察病院、

さらに隣の建物が野方警察になっているため、医療、治安的にも安心安全な学生寮として説明しています。

- ・SIプログラムの参加率、具体的な実施内容
- ・SIプログラム研修の費用、内容 22,000円/年
- ・WISH部の成り立ち、運営方法
- ・RAは階ごとにいるのか 各フロア(約90名)につき4名ずつ配置

IRC はあくまで国際「教育」寮であり、単なる学生アパートではない。ただ住居として使いたいならば、わざわざ国際寮に住む必要性はない。そのため、今までは IRC を「教育、交流のための寮」というのを全面に押し出してきたが、IRC の国際センターが入居率を限りなく 100%に近づけるためなのか「交流ができる教育寮」よりも「安心安全な学生寮」を全面に押し出している現状はある。入居率がほぼ 100%に近い WISH ではどのような広報をしているのか気になった。

WISH の大きな特徴だと思うのは、SI プログラムだ。SI プログラムとは週に 3～5 回、1 回 1 時間半、国際学生寮であるからこそ必要とされる文化的背景の理解やコミュニケーション能力向上などを目的に設置される学びの場のことだ。

交流会で明らかになったことだが、SI プログラムの参加率の低さは課題としてあるようだ。これに対して、SI プログラムを学びの義務として寮生を強制的に参加させるよりも、参加しなかったら自分に与えられている学びの権利を放棄していることになり、本人が損をするだけだというスタンスで今は動いているようだ。参加のインセンティブとして、例えば出席回数が多い寮生にギフト券をプレゼントしたり、実地研修に参加できる可能性が高まったりする。また、毎回様々な分野の学びを得ることができる。国際寮に入って終わり、ではなく、さらに実りある寮生活にしていくために、入寮した後も学び続けられる制度が整っているのはとても恵まれていると思った。学び続けられる環境にあるのは大学管轄の国際寮の特権でもあると思っているため、IRC も寮内で学べるプログラムを設置すればさらに実りある寮生活にできると思う。入寮した後も学び続けられる制度が整っていることと、国際寮で得られる経験とを重ね合わせることで更に相手の背景理解などを深められるのではないかと思う。

以下は質問内容に沿っての意見交換である。

Q1. (IRC から質問) 宿泊イベントや地域交流イベントをする上で意識していることは何か？/地域に愛され、地域に根ざした寮を作り上げていくためにどのようなことをしたのか？

A. (WISH 回答) そもそも WISH が建てられる時に地域交流を頑張ってもらいたいと言われており、中野区や中野中学校などと協定を結んでいる。そのため協定先の中野区から要望があれば WISH も地域イベントなどに協力することになっている。たとえばゴミ拾いイベントは中野区がやっているもので、WISH は中野区から声がかかって参加協力した。協定の中で公平な関係性ができており、そのような交流イベントを通じて行政間の交流や、WISH の成長にもつなげるようなものになればいいと認識している。

中野区に住んでいる人でも、まだまだ WISH のことを知っているようで詳しく知らない人が多い (特に年配の方)。そのため、そのような地域イベントではまずは RA が積極的に相手の話を聞いたりする姿勢を見せることで、WISH の手本になるように意識し、WISH を地域の人たちにも広く知ってもらえるようにしている。

その他にも、地域イベントなどに積極的に参加し地域との繋がりを作り、それが次の代にも続いていくように意識している。

→IRC は地域の人知らないのはもちろん（そもそも地域との交流がないから実態は不明だが）、大学内でもまだまだ知られていないと思う。中大に入学するまで IRC の存在を知らなかったという学生もいる。地域との関わりを持つためにまずは IRC の RA が実際に地域イベントに参加して人脈を作ったり、大学のイベントに積極的に参加したりすることで、次世代にまで大学内関わらず交流が続いていくのではないかと思った。

Q2. (IRC から質問) ホームページで韓国などに 3 泊 4 日ほどで行く宿泊イベントを見たが、それについて詳しく教えてほしい。

A2. (WISH 回答) 寮内で行う SI プログラムは学期期間中にあるが、夏休みは春休みといった長期休みに寮外での教育プログラムを行っており、それが実地調査にあたる。WISH の寮生は 7 割ほどの寮生が首都圏以外の地域から上京してきており、彼らが自分の出身地域の課題について興味を持っている人が多い。そのため、長期休み中の実地調査は各地域の課題について深く考えることを目的に作られた。たとえば福島では原発問題や震災復興、沖縄では基地問題、そのほかにも富士山登山をして富士信仰の問題を扱った。

Q2' (IRC 追加質問) 宿泊イベントはどのように企画されているのか？参加にかかる費用は？参加者はどのように決めているのか？

A2' (WISH 回答) 大学が企画運営している。たとえば実地調査先の大学の先生に個別にお願いしてイベントは実現している。現地までの交通費（航空券も含む）や宿泊費は大学から出ているため、実際にかかるお金は現地でのお小遣いくらいだ。参加者は SI プログラムの参加回数や実地調査への志望動機を考慮して職員が決めている。

→この実地調査にはかなりのお金がかかるようだが、職員が「たとえお金をかけたとしてもそれ以上の学びや価値があると思う」と言っていたことが印象に残った。WISH では職員も一丸となって、寮生の学びの場に時間やお金を惜しまずに熱心に取り組んでいる姿に感動した。

Q3. (IRC から質問) 定員数の多い寮だが、どのようにイベントを開催しているのか (一括でまとめてイベントを開催しているのか、もしくは人数で分けて行っているのか)。

A3. (WISH 回答) WISH には 36 人の RA がいて、その中で 6 つの部署に分けている (2024 年 11 月現在)。イベントの企画運営を RA 全体で分担して行っているが、その中でもイベント部署の RA がミーティングのファシリテーターや企画書の書き方のアドバイスなどイベントに携わる全 RA のサポートを行っている。毎回イベント募集をかけると 200 人程度の参加者が集まる。ただ参加者が 200 人以上いると寮内でのイベントでは場所が限られてしまう。そのため、夏は浜辺でバーベキューをしたり、ナイトウォークイベント (東京スカイツリーや浅草などの東京の名所まで歩いて写真を撮ってくるイベント) をしたりと、寮外でも積極的にイベントを開催している。

Q3'. (IRC 追加質問) 200 人以上の参加者を RA がどのように楽しませているのか？

A3'. (WISH 回答) 36 人の RA がイベントで作った参加者グループのそれぞれに引率として 1 人ずつつくことで参加者をサポートしている。そのほかにもイベント開催にとっても貢献してくれる寮生が、一生懸命他の参加者を盛り上げようとしてくれている。また、少人数のグループを作ってグループ対抗のゲームをして交流を促したり、1 つのイベントにいくつかのアクティビティを入れてイベントを楽しんでもらったりしている。

Q3'' (IRC 追加質問②) IRC のイベントでは RA がほとんど集まらず、毎回イベント RA6 人とその他 2 人くらいの RA が参加してくれるだけで、RA の人数が 10 人にも満たないこともある (RA の人数は 2024 年度後期は 22 人)。RA が全員イベントにしっかりと参加するというのがすごいと思う…。

A3'' (WISH 回答) WISH の RA はイベントに参加することも RA になるための条件として含まれており、それは就活などが無い限り、それ以外の理由で休むことを認めていない。たとえば WISH の RA は 1 人の RA が参加者 3~5 人くらいにアプローチするようにしており、RA36 人がしっかりと参加すれば 200 人近い参加者にもアプローチできるようになると思う。毎回のイベントをイベント RA6 人だけで 100 人近い参加者に対応するのは無理があると思う。IRC の RA 全員がイベントに参加してくれるようになれば、イベント参加者全員にアプローチできるようになるのではないかな。あとは

各 RA にイベントでの役割を振っており、RA がどのように寮生を楽しませればいいのか明確にわかるようにしている。このようにすることで、RA それぞれがどのようにイベントに参加すればいいのかわかり、イベント参加のハードルも下がると思う。

→これは交流会全体を通して思ったことでもあるが、WISH の RA は IRC と比べてやる気が全然違った。WISH は RA 選考の倍率も高く、そもそも RA がただ寮関係の活動をする人、という以上の付加価値を皆感じているような気がした。RA のイベント参加義務化の案は IRC でも何度か出ているが、イベントに関わる者として RA の継続審査のためにイベントを利用してほしくないという思いがあり、義務化を認めていない

(IRC では RA の継続審査に会議の出席率などが含まれる)。RA にはイベントに参加してほしいと思う反面、継続審査に必要なだからいやいや参加するのではなく、「イベントに参加したい」というような前向きな気持ちで自ら参加してほしいと思っている。RA にももっとたくさんの寮生に参加してもらうためにも、今よりもさらに楽しいイベントを作りたいと思っている。

Q4. (IRC から質問) たくさんの寮生がいる中で、キッチンの放置物などの問題にどのように対応したのか？

A4. (WISH 回答) キッチン放置物の写真を撮り、フロアのライングループに送って片付けるように促したこともあるが、最も効果的だった方法は、キッチンの端の方に置いてある放置物専用のカゴの中に RA が見つけた放置物を入れ、一定期間経っても片付けられていなかったらそれを捨ててしまうことだ。放置したら捨てられるという物理的な認識を寮生に植え付けることで、ちょっとくらい放置しても大丈夫だろうという思いをなくすようにした。

→IRC では美化セクションが共有の調理器具の数を減らしたり、寮生に何度も告知したりすることで何年にもわたって放置物をなくそうと努力してきたが、なかなか完璧な状態にするのは難しい。放置物のない完璧な状態を目指すのであれば、最終手段として物理的に放置物を捨ててしまうという強行手段に出るしかないかもしれないと思った。

Q5. (IRC から質問) ごみ分別などのルール周知をどのように行っているのか？ RA が個別に行っているのか、それとも入寮前にレクチャーみたいなものがあるのか？

A5. (WISH 回答) 入寮したばかりの寮生に向けてのオリエンテーションの時間でまずは全体に指導し、そのあとは RA が学生目線でルール周知している。英語と日本語で

何回も同じことを繰り返し、少しでも寮生の頭に残ってもらえるようにしている。あとは入寮者に向けて生活ガイドブックのようなものを渡しており、そこに中野区のゴミの分別ルールについても記載している。

Q6. (IRC から質問) RA は RA でない寮生とは部屋も違うと聞いたが、RA として寮生とどのような関係を築いていきたいと考えているのか？

A6. (WISH 回答)

- ・(2年生 RA) 1年生と年齢が近いこともあって、できるだけ友達のような、近い距離でなんでも話せるような存在でありたいと思っている。

- ・WISH は大多数の寮生が首都圏以外から来ているというのもあり、心細く思っている寮生も多いと思うから、そのような寮生が弱音を吐き出せる存在でいたい。そのためにも、キッチンで会った時に少し声をかけてみたり、自分から積極的に話しかけるようにしている。

- ・英語と日本語と韓国語ができることを生かして、言語の壁のある寮生同士の架け橋になれるようにしている。

→フロアの新入寮生と悩み相談の時間を個別にとったりして、そのような場でできたつながりから自分の部屋に寮生が話を聞いてもらいたくて来ることもあるという。

IRC は RA の活動が寮運営の側面が強くなってしまっていて、寮生に身近な存在とは言えないだろう。一方で WISH は RA が寮生にいちばん近い存在でいられるように普段から気にかけている様子がしっかりと伝わった。

Q7. (IRC から質問) 寮生が参加するミーティングの頻度とその内容は？

A7. (WISH 回答) フロアミーティングが毎月1回ある。対面よりもオンラインの方が参加率が高くなるため、対面とオンラインのハイブリット形式で開催している。真面目な連絡に加え、フロアで開催されるイベントの告知などもふまえた楽しい連絡も合

わせて告知している。そのほかにも大学職員と RA36 人をまとめるリーダーズという存在の 4 人、ハウスマスターと寮内の問題の共有などをするミーティングがある。

Q8. (IRC から質問) 人間関係の問題などを RA が発見する方法をその解決法は？

A8. (WISH 回答) 基本的にはユニットごとにルール作り (ドライヤーを使える時間など) をしてもらっている。ルールはしっかりと明文化して紙に残すようにしている。あとは個別にラインでユニット内の問題を RA に相談してくれることもある。その場合は RA が様子を見に行ったりしている。寮生が寮にいる頻度はバラバラのため、やはり RA と寮生の信頼関係が大切になる。RA と寮生だけで解決できない問題にはハウスマスターに最終的に介入してもらおう。加えて、匿名アンケートなどを実施し、個別にユニットに介入していくことも考えている。

→RA が普段から寮生を気にかけることはもちろん大切だが、それ以外にも寮生が匿名でも匿名でなくても RA に個別に相談できる仕組みが整えられていた。IRC では寮生から RA にアタックできる機会が皆無のため (仲の良い RA に相談する寮生はいても、寮生全員にそれができるわけではない)、寮生が匿名で寮生活の悩み事を RA に届けられる目安箱のような制度を作った方がいいと思った。

Q9. (IRC から質問) WISH 部 (サウナ部やナイトランクラブ、朝活部など) の成り立ちは？その運営は誰が中心になって行っているのか？

A9. (WISH 回答) 900 人前後の寮生を抱えていると、寮の活動にあまり積極的に関わらない寮生が出てきてしまうというのが課題としてあり、それを解決するために、寮生の縦横のつながりを強くしようとして寮生主体のコミュニティができあがった。そのため基本的には寮生主体で、1 つの部に顧問として RA が 1 人つく仕組みになっている。寮生が作ったそれぞれの部活のライングループがあるので、そこで次の活動の告知がされる。RA はそれぞれの部活がしっかりと活動できているか見ている。

→今は寮生が IRC で何かやるとすると、イベントという形が多い。そのようなイベントは企画書を書いて、国際センターに許可を得てという流れが多く、実現までには綿密な計画と労力と時間もかかる。WISH 部のように寮生が好きなことを寮生主体でできて、何かを企画するというよりもただコミュニティーにいつでも参加できる寮生を

増やすためには、寮内に寮生主体のコミュニティーの場を作るのは有効的な方法だと思った。

### <周辺施設>

↓②②周辺の様子 ↓②③ ②②と同じ



↓②④近くの商店街



↓②⑤韓国料理



寮周辺（②②③）にはバス停や病院、警察署、駅の方に向かうと商店街がある。病院や警察署があることで安心なのはもちろんだが、商店街があることで生活の利便性も高い。商店街（②④）近くにある韓国料理屋でお昼ご飯（②⑤）を食べた。ビビンバとチゲとサラダのセットでなんと 1,000 円！破格の安さに驚いた。WISH の近くは大学もいくつかあるため、学生街なのだろうと思った。若者が好きそうなこってりしたラーメン屋が数多くあり、ラーメン屋に限らず、飲食店はどこも安かった。

### <WISH まとめ>

- ・ RA のやる気が全然違かった。WISH の RA は普段の RA 活動以上の価値をそれぞれが見出しており、RA 活動に対する思いがとても強かった。
- ・ RA は寮生にいちばん近い存在でいられるように、ポスターなどの工夫が寮内にたくさんあった。そのほかにも RA それぞれがその思いをしっかりと抱いていることが伝わった。
- ・ 入寮して終わりではなく、入寮後も寮内でいつまでも学び続けられるサポートが充実していた。



<活動場所 3ヶ所目>

立命館アジア太平洋大学 APハウス

※以下、大学はAPU、寮はそのままAPハウスと記述する。

<活動日>

2024/11/24（日）～11/26（火）

<スケジュール>

・11/23（土）

翌日11/24の朝の便6:45発だったため、IRCから空港まで始発で行ったとしても間に合わない。そのため前日の終電で成田空港に向かい、空港泊した。初めての空港泊はとにかく寒すぎて全然眠れなかった。

・1日目 11/24（日）

6:45～9:05 成田空港から福岡空港へ飛行機で移動

飛行機に搭乗するまで、昼食

11:12～13:15 福岡空港～別府北浜へ高速バスで移動

14:00～16:00 APU 在学生副学長らと交流会

その後、交流会参加者と夕食

夕食後、APハウスに移動

チェックイン、APハウスと大学見学

20:00～ APハウスRAとイータ（慶應義塾大学 H VILLAGE）RA、IRCで交流会

22:00～23:00 APハウスのキッチンデューティー見学

23:00～ 自由時間、その後就寝

・2日目 11/25 (月)

8:00 起床

9:00 AP ハウスホールに集合

9:30～10:45 AP ハウスと大学見学

10:45～12:30 3 大学交流会 (APU、慶應大学職員や教授も含めて)

12:30～14:00 昼食、集合写真撮影、その後解散

～17:00 くらいまで APU 散歩

～20:00 くらいまで 夕食、別府市内観光

21:00 宿にチェックイン、自由時間、その後就寝

・3日目 11/26 (火)

9:00 起床

～11:00 宿の周辺観光

11:15 頃 別府駅から大分空港へ高速バスで移動

飛行機に搭乗するまで昼食、買い物

14:55～16:30 大分空港から成田空港へ移動

17:30 頃～ 成田空港から IRC へ移動、帰寮

<活動場所選考理由>

AP ハウスはとにかく規模が大きい。これほどの寮生を抱える寮でどのように運営しているのか気になった。また、IRC ではキッチンや各ユニットに清掃業者が入り掃除をしてくれるが、AP ハウスにはそれがない。そのような状況でどのように寮生主体で掃除を行っているのか知りたいと思った。その他にも、AP ハウスでは各棟のリーダーが指示を出して寮運営を行っているが、それが IRC で RA 長 4 人が寮運営に携わっていることと似ていると思った。IRC も AP ハウスもリーダーが何人かいる状態だが、どのように運営しているのか学びたかったから。

### <APU の概要>

- ・ 2001 年 9 月オープン→2025 年で 25 年目に突入する。
- ・ AP ハウス 1、2、5 に分かれる。
- ・ 食事なし。完全自炊。
- ・ AP ハウスで約 1300 人が生活し、国際学生と国内学生は 7：3 の比率。

→ 2024 年 4 月時点で国内学生の 92%、国際学生はほぼ 100%入寮している。

・ 入学 1 年目の国際学生は日本のルールなどを学ぶために全員寮に入寮し、ゴミ分別の訓練などを行う。

→寮を出た後も自力で日本で生活していけるように、AP ハウスで基礎を徹底的に習得する。

以下のリンクは、IRC から AP ハウスへ事前に送った質問一覧である。

[https://drive.google.com/file/d/1pSX\\_HBpiKjSF\\_xgBeLYD1tv4cDTV8a7I/view?usp=drivesdk](https://drive.google.com/file/d/1pSX_HBpiKjSF_xgBeLYD1tv4cDTV8a7I/view?usp=drivesdk)

### <活動報告>

- ・ 1 日目



空港泊して無事に福岡に着き、大分行きのバスに乗るまでの時間で福岡空港で豚骨ラーメンを食べた。東京で食べる豚骨ラーメンとは違い、ガッツリ、はっきりとした豚骨の味だった。その後空港内の土産屋を見て、バスに乗った。前日全然眠れなかったからかバスの中では爆睡で、あっという間に大分・別府に着いた。

↑①福岡空港で食べた豚骨ラーメン

#### ←②APハウス4



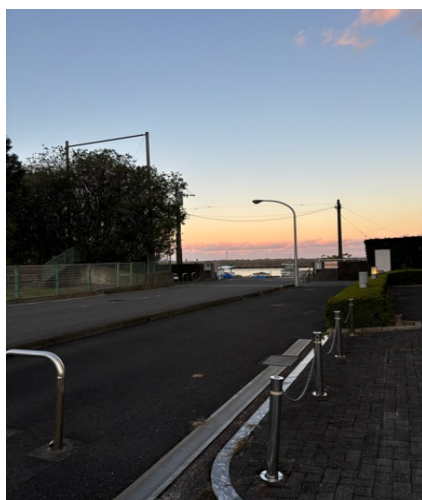
まずは海沿いにある AP ハウス 4 (②) で、APU 在学生副学長の学生と AP ハウス、イータ、IRC で意見交換多めの交流会 (③) をした。まずは各大学から大学や寮の紹介をして、その後は APU 在学生副学長からの質問がメインで進んでいった。各大学からの紹介をするときにテレビに iPad を繋ぐことができず、結局は iPad の画面を見せながらの発表となってしまった。パソコンと違い iPad は別の変換プラグが必要になる。IRC の会議でも iPad からスライドに繋いで使うことが多いから、変換プラグは必需品だったと後悔した。



内容は「今後多様性や質の高い教育を提供し続ける大学を作り続けるために、大学としてどのようなことに取り組んでいるのか」といったような「大学のこれからを考える」がテーマの話題が多く、話についていくのは難しかった。しかし自分の大学に誇りを持ち（それも日本での留学先の大学で！）、大学をよりよくしていくために尽力している同年代の大学生と交流できたことは良い刺激となった。

#### ←③交流会後の集合写真

#### ←④交流会後に見た夕焼け



交流会後に皆で近くのレストラン「ジョイフル」で食事した。関東圏にもジョイフルはあるらしいが、私は行ったことがなく、今回が初めてだった。ジョイフルで驚いたことはメニューの多さだ。和食も洋食もデザートも何もかもメニューにある。私はすき焼き定食を頼んだ。食事が提供されてから皆で自己紹介をしていき、それぞれの寮に対して持っている質問を投げかけ、それに回答していくような時間になった。一緒に夕ご飯を食べたことで私の緊張もほぐれ、全体的に和やかな雰囲気だった。



←⑤宿泊した部屋

夕食後、バスで AP ハウスに移動した。AP ハウスは山の上にあるというのは聞いていたが、想像していたよりも本当に山の中にあり、「森の中をバスが進んでいく」という表現がぴったりだと思う。寮の周りは真っ暗だったが、街の明かりがないからこそ星が綺麗だった。AP ハウスにチェックインをし、各自自分の部屋に荷物を置きにいった。⑤の写真が私が IRC の RA の後輩と一緒に泊まった部屋だ。普段も来客用のゲストルームとして使われているのだろう。ベッドが 8 つある部屋に 2 人という少人数で泊まったことはなかったため、とても新鮮な経験になった。



↑⑥AP ハウス、大学内ツアー



↑⑦AP ハウスからの夜景

←⑧警告書

Official Warning [Resident]			
Date	Time		
Place			
Resident (ID)	Room Number		
Name			
Check all that apply	Noise 騒音	Drinking 飲酒	Underage drinking 飲酒 (未成年)
	Indoor smoking 屋内喫煙	Underage smoking 喫煙 (未成年)	Non-resident/寮外生 寮外内喫煙 喫煙 (未成年)
RA in charge	Other(その他) ( )		
Floor/Name			
Official Warning [Security Office]			
Date	Time		
Place			
Resident (ID)	Room Number		
Name			
Check all that apply	Noise 騒音	Drinking 飲酒	Underage drinking 飲酒 (未成年)
	Indoor smoking 屋内喫煙	Underage smoking 喫煙 (未成年)	Non-resident/寮外生 寮外内喫煙 喫煙 (未成年)
RA in charge	Other(その他) ( )		
Floor/Name			
寮生 Person ID	(寮生番号 寮室対応番号)		

その後、AP ハウス内を案内 (⑥) してもらった。寮内の様子は後ろのページにまとめて記入する。寮内見学が終わった後は AP ハウスの RA とイーター、IRC で交流会をした。主にそこでは RA の仕事内容に関する質問が多かった。AP ハウスの RA は寮運営よりも寮生サポートの側面がかなり強いようだった。各フロア 50 人程度を男女 RA 計 2 人で見ると、寮生のルール違反を見つけたら⑧の写真の警告書のようなものを出し、これが何枚か出されると？交換留学に行けなくなるらしい。国際色が強い

APU で留学に行けないことはものすごく致命的なのだとか。特に仲の良い寮生の違反を見つけてしまったときに違反切符を RA が切らなければいけないことはなかなか酷だと思った。完全に RA 主体で寮生サポートをしているため、寮生と RA の絆は IRC と比べものにならないほど強かった。しかし、寮生からサポートを求められれば



24 時間 365 日対応しなければいけないため、RA 補助として家賃 5 万円程度が無料になったとしても負担が大きすぎることで、寮生サポートに時間をとられ寮運営にまで手が回せないことが課題としてあるようだ。



←⑨AP ハウス、大学内ツアー後の集合写真

交流会後は大学内にあるコンビニで翌日の朝食などを買い、バディとなった AP ハウス RA が担当する居住棟のキッチンデューティーに参加した。キッチンデュー

ティーとは毎日寮生と RA がペアになって、22:00 から 30 分程度キッチンの掃除を行う時間だ。新しいゴミ袋の設置もシンクやコンロ、床の掃除も全て寮生と RA がペアになって行う。キッチンデューティーが毎日あり、RA は 2～3 日おきに担当が回ってくるため、必然的に 22:00 までバイトをすることはできない。大学生のバイトは夜 21:00～22:00 頃まで働いている人が多いが、RA になると夜遅くまでバイトができないという時間的な制約も大きいと思った。キッチンデューティーでは寮生が少しでも気分を上げて掃除できるように音楽をかけながら、といった工夫も見られた。また、キッチンデューティーの時間に RA と寮生が話すことで交流も深まるようだ。IRC も夜～早朝にかけてキッチン放置物が増えるため、その放置物の回収や片付け、今は業者に頼んでいるがシンク掃除、ゴミ捨てなども寮生と RA がペアで行うことで、交流をもっと深められ、さらにキッチンにある課題を自分事として捉えられたり、なかなか共有スペースに出てくるのが難しいと感じている寮生も過ごしやすくなったりするのではないかと思った。キッチン掃除が終わったらゴミ捨てに行くのだが、ゴミ袋にフロア番号を書いて、正面入り口で他の担当 RA にチェックしてもらってからゴミ庫に捨てに行く。IRC ではゴミをユニットに置いておけば週に 1 度清掃員がまとめてゴミ庫に捨てにしてくれる。AP ハウスは何から何まで、RA 中心にとにかく寮生が全部やっていることに本当に驚いた。

あとは敷地内で寮生にすれ違おうと皆「お疲れー」と挨拶する。国内、国際学生関わらず全員だ。国際学生が日本に来ていちばん最初に覚える日本語が「お疲れー」だという。「こんにちは」ではないことに驚いたが、「お疲れー」というのは大学生らしくていいなと思った。キッチンデューティーの後は部屋に戻り、シャワーを浴びて就寝した。

・2日目

8:00 に起床し、9:00 の集合に向けてベッドメイキングや部屋の掃除を行った。1日目は学生だけの寮内見学だったが、今日は学生と各大学の職員、イータの建設会社の人たちで見学した。

以下、1、2日目を合わせての寮内見学である。



←⑩階段下の棚

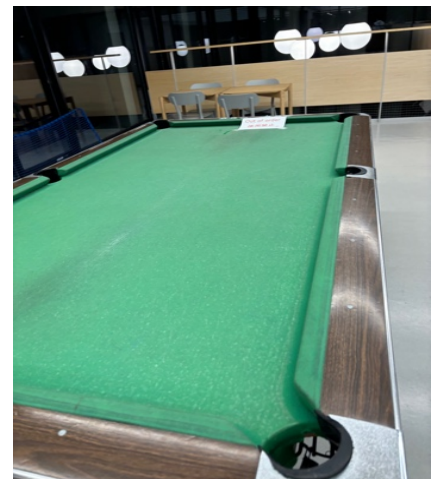
APハウス5（2023年4月オープン）はオープンしたばかりでとても綺麗だった。木材をベースに建てられており、外から見るとまるでAPハウス5だけが浮いているような感じだった。とにかくAPハウス5はおしゃれだった。少しわかりにくいですが、これは階段の下に段状に棚が設置（⑩）されている。他のAPハウスが横にまっすぐ長い形に対し、APハウス5は十字のような不思議な形（⑪）をしていた。



↑⑪APハウス5の建物の形



↑⑫吹き抜け



↑⑬ビリヤード台



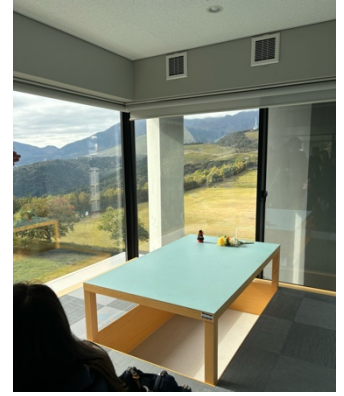
↑⑭個室



↑⑮キッチン小

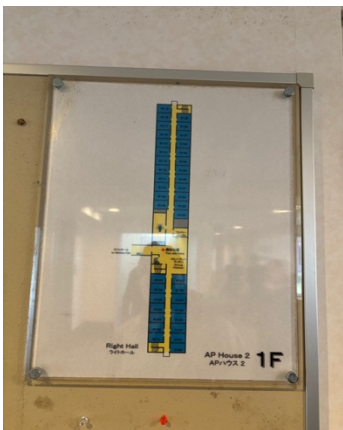


↑⑯キッチン大



↑⑰畳の部屋

吹き抜け(⑫)になっているため、下の共有スペースもよく見えた。天井から下がっているライトも丸みが与える暖かさがありおしゃれだ。また、ビリヤード台(⑬)もあった。卓球台がある寮はよくあるが、ビリヤード台を置いているのはレアだと思う。モデルルーム(⑭)にも案内してもらった。部屋も全体的に木材でシックにまとめられていて、ここもおしゃれだと思う。また、場所によっては小さいキッチン(⑮)や、畳ベースの半個室(⑰)があったりする。そのほかにも各部屋の前にはプレートがあり、そのプレートに自己紹介を貼っている寮生もいた。IRCではユニットや各部屋の前にプレートがないため、誰がどのユニット、部屋にいるのかわからない。これはUSセクションとも協力して各部屋やユニットの前に自己紹介や自分を表す何かを貼ってみたいと思った。



↑⑱館内図



↑⑲廊下



↑⑳キッチン

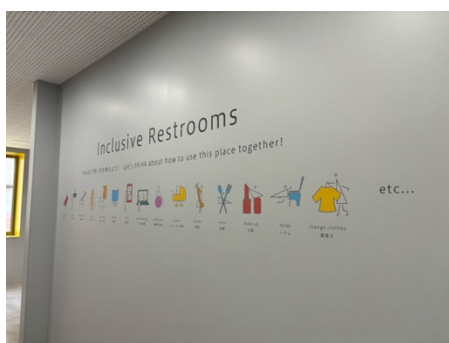


APハウス2はとにかく横に長い建物だった。フロアの真ん中にキッチン(20)、別のフロアに移動する階段があり、そのキッチンから横に居室が伸びている(18)(19)。キッチンや階段を中心とする動線は、外出するときに絶対に皆がいるキッチンを通らなければいけないからこそ、必然的に交流も生まれるのだと思う。



#### ←21 2人部屋

2人部屋は薄い壁を隔て、2部屋に分けられている。その壁は引き戸のようになっているため、壁をなくすこともできるようになっている。仲良くなるとその引き戸を開けた状態で過ごすらしい。引き戸を開けると実質1部屋に2人で生活しているような感じになるため、同室の寮生とはとても仲良くなると思う。IRCほどの部屋も完全に個室のため、2人部屋という選択肢があるAPハウスが羨ましいと思った。また、寮内には娯楽グッズとしてピアノや卓球台もあった。APハウスを全体的に見て回って思ったことだが、壁とにかく掲示物が多い。飲酒禁止のポスターからイベントアイデアの募集の案内まで、壁にはたくさんの掲示物が貼られている。WISHも掲示物が多かったが、WISHやAPハウスと比べてIRCがいかに掲示物が少ないかということが目立った。掲示物の数だけ寮生が情報を得られる機会が多いことになる。たしかに建物のおしゃれさから考えると掲示物は少ない方がいいのかもしれないが、私たちはIRCのエレベーターの中や壁に貼られている清掃のお知らせなどは意外に普段から目に入っている。RA紹介の数を増やしたり、各セクションの仕事内容、留学生に向けた日本のルールなど、もっとポスターという手段での案内を増やしたいと思った。



#### ←22 Inclusive Restrooms

その後はAPUの中にある、最近新しくできた完全大分産の木材で作られた建物(Green Commons)を案内してもらった。作りはなんとなく中大にあるフォレゲに似ていた。そこには「Inclusive Restrooms」(22)というのがあった。ここはもちろんトイレもあるが、何をしてもいいスペースになっている。自習室のように使ってもよし、着替えや食事に使ってもよし、休憩するために使ってもよし、用途を問わない半個室である。最近多様な性のあり方が認められるようになり、多目的トイレはたくさんあるが、このような多目的ルームは見たことがなかった。斬新なアイデアだし、トイレを作るならこのような部屋もセットでもっと普及していてもいいのではないかと思う。この部屋を見て思ったことだが、IRCも多様性を認める寮を目指しているにも関わらず、多目的トイレは施錠されて

おり、普段は使用することができない。それにすごく引かかった。特にジェンダーへの意識が高い海外の留学生にとって、多様性を謳っているわりには多目的トイレが使えないのは不思議な光景かもしれない。IRC も多様性を目指すのであれば、まずは多目的トイレを利用できるようにしなければ何も始まらないと思った。



↑ ⑳意見交換の様子



↑ ㉑中大からの発表



↑ ㉒交流会後の集合写真

見学の後は、3大学合同で職員や教授も交えた交流会（㉑㉒㉓）を行った。それぞれの大学や寮の説明をした後に、主に APU、慶應大の国際寮に関わる教授のトークセッションが開かれた。そこでは寮を作るに至った経緯やオープンしてすぐの時期にどのように運営を進めていったのか知ることができた。



↑ ㉓全体集合写真



↑ ㉔学食メニュー



↑ ㉕昼食

交流会後は APU の学食でみんなでお昼ご飯を食べた。APU の学食は多国籍な学生に配慮し、肉の入っていないメニューなど充実していた（㉔）。私が頼んだご飯もハラールフード（㉕）で、肉は入っておらず豆がベースとなっている。小鉢メニューも充実しており、それに砂肝を追加した。初めてハラールフードを食べたかもしれないがおいしかった。昼食の後は APU の象徴ともいえる噴水の前でみんな写真撮り（㉓）、解散した。その後 APU で仲良くなった慶應生（もともと APU に在学していた）に APU を案内してもらった。コンビニで真っ黒のミントアイスを買って、景色の良い食堂でそれを食べながらいろいろ寮生活について話した（㉔）。APU のおすすめスポット（㉕）も

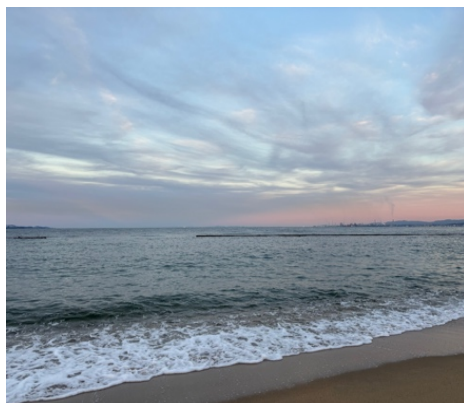
教えてもらった。夕方になり、別府市内に移動し、日が完全に暮れるまで海で夕焼けを見ながらいろいろと語り合った (③)。



↑②仲良くなった慶應生と



↑③APU のおすすめスポット



↑④別府市内の海



←⑤とり天

途中浜辺で宗教に勧誘されたりとパプニングもあったが、これからの寮の在り方や自分が目指す寮の姿、今後やりたいことを誰かとこれほどじっくり語り合ったことがなかったので、とても充実した貴重な時間になった。夕食は大分名物のとり天定食 (⑤) を食べた。

1,400 円くらいでとり天が 10 個ついてくるのだ。普通の唐揚げと違い脂っこくなくさっぱりとしていたため食べやすかった。塩をつけたりゆず風味のタレにつけたりと、味変をしながら最後まで楽しんで食べる事ができた。

夕食後は一緒に過ごした慶應の友達と別れ、宿に移動した。宿は温泉付きの、ベッド一区画分だけ借りるドミトリー形式だった。初めて泊まるドミトリー形式は最初は少し不安だったが、快適に寝ることができた。宿には綿あめの機械が置いてあり、自由に使えるようになっていた。外国からの宿泊客にわたあめの作り方をレクチャーして一緒に作ってみたり、普通の部屋を借りる宿だと経験できないようなこともでき新鮮だった。





←③APU から見える景色

AP ハウスでの 2 日間の交流を通し、今回は交流会の時間で知ることよりも実際に寮生活を見たり、1 泊だけだったが経験したりして気づいたことが多かった。今回の交流会は AP ハウスの学生が APU 職員と相談して全て進行してくれたが、彼女の企画力や運営能力に本当に関心した。

1 つの交流会を作り上げるだけでも相当な労力だっただろうに、私たち外部からの宿泊者のサポートや AP ハウスの RA との橋渡しなど、本当にたくさんのタスクをこなしていて同級生とは思えないほど活躍していた。AP ハウスではこのような交流会も完全に寮生に任せているようだ。RA が適材適所で活躍している様子がよく伝わってきた。

### ・ 3 日目



←③④商店街

14 時過ぎのフライトだったため、11 時過ぎにはもう空港に向かわなければいけなかった。宿のチェックアウトの時間までは宿周辺の観光や地元のスーパーに行ってみた。近くに商店街

(③④)があったので歩いてみたが、訪問した時間が朝早かったからか店は全然開いていなかった。地元のスーパーでは東京では買えないようなとり天おにぎりやヨーグルトを買った。じっくり観光する時間もなく、チェックアウト後はそのまま高速バスで空港に向かった。昨日 AP ハウスを去ってから半日を過ごした

慶應生の友達も飛行機の便が同じだったため、空港では一緒にお土産を見たり、大分ならではの空港の足湯 (③⑤) に入ったりとゆっくりと過ごした。



↑ ③⑤足湯



↑ ③⑥カボスパフェ



↑ ③⑦飛行機

カボスが有名な大分ならではのカボスパフェ (③⑥) を食べたが、初めてカボスパフェを食べたかもしれない。さっぱりしていておいしかった。あっという間に搭乗時間が来てしまい、飛行機 (③⑦) に乗った。帰りの飛行機も爆睡であまり覚えていないが、2時間くらいのフライトであっという間に成田空港に到着した。長い時間を過ごした慶應生の友達と別れ、私はそのまま IRC に帰った。

#### <AP ハウス まとめ>

- ・ APハウスの RA は、徹底的に寮生サポートに尽力している。
- ・ 今まで見てきた他の寮と比べ、全体的に大学も寮での活動を RA に完全に任せている様子が窺えた。
- ・ キッチンデューティーはたしかに RA にとっては負担の大きい活動かもしれないが、RA はたくさんの時間を寮生と過ごしているからこそ寮生から圧倒的な信頼を得ていた。

→APハウスの RA には1ヶ月で15日以上は寮にいないといけないというルールもある。そのようなルールやキッチンデューティーなどの活動、それ以外の寮生サポートなど活動量の多い中でもこれほど熱意を持って取り組んでいるのは言うまでもなく素晴らしいことだと思う。



<活動場所4ヶ所目>

中央大学多摩キャンパス 中央大学国際教育寮 (IRC)

※慶應大学 H VILLAGE (イータヴィレッジ/以下、イータと記述する) の学生が IRC まで来てくれたため、IRC で交流会を開催した。

<活動日>

2024/12/05 (木)

<当日のスケジュール>

16:00 イータ学生が IRC に到着

16:00~17:00 館内ツアー

17:10~18:10 交流会

18:15~ インドカレー屋「うまんぱりわる」で夕食、その後解散

<活動場所選考理由>

APハウスでの交流会を一緒にさせていただいたイータの学生が日本全国の国際寮の見学に飛び回っており、その中の1つとしてIRCがあった。イータの学生とさらに親睦を深めたり、RA活動の情報を共有するために交流会を開催した。

<イータの概要>

- ・2023年2月末オープン→2025年で3年目に突入する。
- ・4つの居住棟と1つの共有棟から構成される。
- ・授業期間中は朝晩食事つき。
- ・IRCと同じ定員300人。

・寮運営には HL（ハウスリーダー/各棟のリーダーで UL から選出される/寮や棟全体の運営、大学事務室などと連絡調整を行う）、UL（ユニットのリーダー/ユニット管理や棟運営を行う）、RA（留学生のサポートがメイン）が携わっている

### <交流会>



↑①交流会の様子



↑②集合写真

交流会（①）ではまず、中大から IRC の説明をし、その後イータから説明をもらった。イータに携わっている機関は多く、どの機関がどこに携わっているのかかなり複雑のため、イータの仕組みに関する質問が多かった。そのほかにも、これまで IRC が直面したトラブル対応（ユニット内の電子レンジからぼや騒ぎなど）についても、RA がどのような対応をしているのか共有、意見交換を行った。

### ・イベントに関して

イータのイベントは装飾に最もお金がかかっている。イータのソルト棟（共有棟）は寮生以外の人が入ってこれるようになっているため、その装飾は特に力を入れて取り組んでいる。

→IRC ではイベントの装飾をほとんどやっていない（装飾まで手が回り切っていないというのもある）。イベントごとに装飾に凝ることで、寮見学に来た外部生や保護者も寮のイベントを身近に感じられるだろうか。また、イベントの装飾によって寮生、特に留学生が季節を感じられたり、イベントへのワクワク感が高まるかもしれないと思った。



### ←③夕食

交流会後、中大近くのインドカレー屋「うまんぱりわる」でイータの学生と一緒に夕食をとった(③)。交流会だけでは話が終わらず、うまんぱりわるに移動した後も IRC とイータの学生混合の卓で、カレーを食べながら話し合った。

うまんぱりわるでは主にイベント関連の話をするグループと、寮全体のシステムについて話すグループに分かれた。

最初はイベントに関して話していたが、だんだん大学国際センター（イータは学事）との関わり方についての話の流れに流れていった。その中で驚いたのは、入寮期間中イータの RA などは無給で働いているということだ。基本的に国際寮は春と秋の年に 2 回入寮のタイミングがあり、特に春はものすごく大変だ。3 月後半の 10 日間は RA や UL に向けた研修や寮生へのガイダンス、ウェルカムイベントがあり、毎日朝から晩までずっと活動しているようなイメージだ。1 年で一番忙しい時期なのではないかと思う。IRC では入寮期間中の入寮対応（館内ツアーや寮内ルールガイダンス、荷物運びなど）は全て大学とのアルバイト契約で成り立っており、入寮期間中に出勤する RAUL には働いた時間に応じて給料が出る仕組みになっている。あの怒涛の入寮期間を無給でこなしているのだから、イータの RAUL の寮への協力姿勢やモチベーションの高さに感心した。今まで IRC で当たり前だと思って受け入れてきたことが他大学と比べると、実は全く待遇が違うことも驚いたが、IRC が当たり前ではないことも学べて、今回の交流会ではとにかくイータと IRC を徹底的に比較できたことがよかったと思っている。

<活動場所 5ヶ所目>

慶應大学湘南藤沢キャンパス H VILLAGE (イータヴィレッジ)

(以下、「イータ」と記入する)

<活動日>

2025/02/05 (水)

<IRC からのアクセス>

中央大学・明星大学駅～多摩センター駅 (多摩モノレール)

小田急多摩センター駅～新百合ヶ丘駅～湘南台 (小田急)

湘南台駅バス停～慶應大学 (バス)

<当日までのスケジュール>

2025/01/30 (木) 19:00～20:00 オンラインでイータの代表者と事前ミーティング

<当日のスケジュール>

8:00 IRC 集合

8:19～9:50 移動、イータ着

10:00～11:00 イータ見学

11:00～12:15 イータの学生と交流会

12:15～ イータの学生と一緒に昼食、その後解散

#### <活動場所選考理由>

APハウスでの交流会を一緒にさせていただいたイータの学生が昨年IRCに見学に来てくれたため、今度は中大がイータにお邪魔した。昨年のIRCでの交流会でのメンバーと今回イータ見学に行くメンバーは変わるため、新メンバーとの交流を通して新たな学びを得ることを目指した。また、実際にイータの学生が生活している場所を見学することで、現地でしか得られない情報（部屋の広さや雰囲気、清潔度など）を得るため。

#### <イータの概要>

「活動場所4ヶ所目」のIRCで開催したイータとの交流会のページを参照。

#### <活動報告>

寮内設備、交流会、昼食の順で記述していく。

イータの学生や慶應SFCに行ったことのある人から「イータは山奥にある、アクセスが不便だ」「中大からSFCまでは結構遠い」と聞いていたため、到着までにどれだけ時間がかかるのかと身構えていたのだが、思ったよりも近かったように感じる。ただ、湘南台駅からSFCキャンパスまではバス、もしくはダイチャリ（レンタル自転車）か徒歩で50分程度かかるらしい。バスを逃してしまったら寮にたどり着くのがとても大変だということはよく伝わった。最寄駅が電車の場合は「終電」という言葉があるが、イータに住む学生の間では「終バス」という言葉が使われているほど身近にバスがある生活がおもしろかった。イータのあるSFCキャンパスは中大に引けを取らないくらい山の中にあり、とても自然豊かな場所だと思った。

イータ（①②）はコンクリート造りで、外観を一目見た時は洗練された研究所のようだった。イータは今年で2年目ということもあり、外観はもちろん、寮内も綺麗だった。





① イータエントランス外観



②イータを構成する住居棟外観



←③交流会会場

まず、交流会会場（③）に案内された。交流会会場は男女共用で使える棟にあり、写真からはわかりにくいですが、中は中大文学部3階にある大教室よりも広いかもしれない。交流会会場となった部屋はRAの学生がいれば使うことができるらしい。また、その部屋が寮内イベントの会場になることもある。中大にはRAのみが活動できる部屋やイベントで寮生全員を収容できるスペースが寮内にないため、ほぼ全員の寮生を収容できるスペースが寮内にあるのはイータの強みでもあると思う。



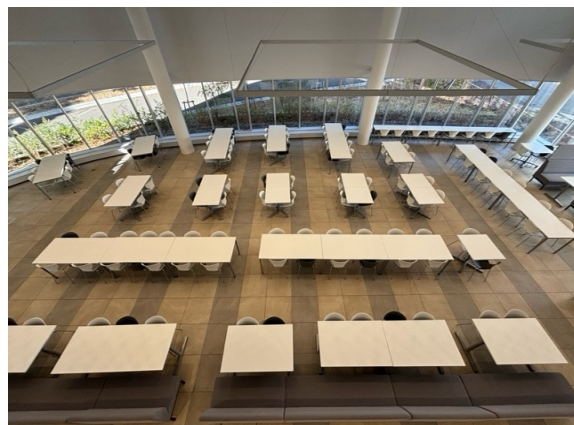
←④管理人室

次に男女共有棟を案内してもらった。共有棟には管理人室（④）や食堂（⑤⑥）などがある。管理人室の横には寮生全員分の郵便受け、数に限りのある宅配ボックスのスペースがある。IRCの郵便、宅配スペースも同じような作りであり、IRCはオンラインショッピングをする学生が多いため、すぐに宅配ボックスがいっぱいになってしまう。IRCでは宅配ボックスがいっぱいになってしまった時にはやく荷物を受け取るように、フロントオフィスが寮生ラインで連絡するのだが、イータも同じような感じだった。春など新入寮生も増えるタイミングでは宅配ボックスに入りきらなかった荷物が宅配ボックスの外に置かれていることもあるという。宅配ボックスなど数に限りのある設備は寮生増加

に伴い、荷物が入りきらないなどの様々な問題に直面するのはどこの寮も同じよう  
だ。



↑⑤食堂



↗ ⑥ ⑤と同じ

同じ棟に食堂（⑤⑥）があり、寮生は朝晩食堂で提供される料理を食べることができる。朝は7:30～9:00まで食事が提供されているが、授業開始が近づく8:30前後になると食堂はすごく混雑するらしい。寮生に昼食は提供されないが、イータの食堂は昼休みは寮生だけではなく、SFCの学生や教職員など一般にも開放されており、イータの食堂で注文できるランチを食べることができる。噂によると、イータの食堂はSFCの学食より美味しいのだとか…。

住居棟は中庭を囲むような形で建っている（⑦）。中庭にはおしゃれなオブジェ（⑧）があった。各住居棟の入り口には靴箱（⑨）があり、寮生はそこで靴を脱いで中に入る。入り口入ってすぐ、テレビなどが置かれている共有スペース（⑩）があり、寮生が集える場になっている。区切られた共有スペースだけでなく、玄関入ってすぐ、吹き抜けになっているスペースには椅子と机がある集いのスペース（⑪⑫）がある。



↑⑦住居棟



↑⑧オブジェ



↑⑨靴箱





↑ ⑩共有スペース



↑ ⑪玄関入ってすぐのスペース



↑ ⑫別階の共有スペース

建物が吹き抜けになっているため、共有スペース（⑩⑫）での騒音問題は起こっているようだ。しかし、吹き抜け+大きな窓を囲むように建てられているため、十分に開放感があった。玄関入ってすぐのスペースや、⑫の写真からもわかるようにユニットから出てすぐに共有スペースがあることで、出かけるときには必然的に共有スペースを通ることになる。共有スペースを通らなければ外に出られない仕組みになっていることが、寮生間の交流という点ではプラスに働いているのではないかと思った。



↑ ⑬キッチン



↑ ⑭キッチン備品



↑ ⑮調味料

各フロアに共有キッチン（⑬）がある。共有キッチンには⑭のような備品が置かれている。⑮のように各自が持ち寄った調味料も置かれている。キッチンに洗われていない食器などが放置されている場合は、各階の RA が対応するようだ。朝晩食事が提供されているためキッチンを使用する寮生は限定的であること、イータの RA は寮生サポートのような側面が強いため、どの寮生が放置した皿であるのかわかるらしい。これにはかなり驚いた。IRC も RA は寮生をサポートする役割はあるが、セクションに分かれての寮運営の側面がかなり強い。IRC でもキッチンに放置された皿の対応を RA がやったり、寮生ともっと距離が近い存在になるためには、「RA=寮運営」という構成から脱しなければいけないと感じた。その他にも、共同炊飯器の内蓋を洗わない人が多いという問題もあるようだが、これも IRC と同じだった。キッチンの利用方法を説明する初期の段階で、炊飯器の内蓋も洗うようにしっかり指導しなければ、内蓋まで洗うという習慣はなかなか定着しにくいのではないかと感じた。共有キッチンの扉には⑯のピクトグラムが描かれている。かなりおしゃれでスタイリッシュな印象を与えていると思う。



↑⑯ピクトグラム



↑⑰モデルルーム



↑⑱（別角度）



↑⑲個室から見える風景



↑⑳駐輪場と駐車場



モデルルーム (⑰⑱) に案内してもらった。部屋の広さや備え付けの家具は IRC とそれほど変わらない。ただ、各部屋に大きな窓とベランダがあり、外に洗濯物を干せる (IRC はイータの半分くらいの大きさの窓があるが、安全上の観点から外に洗濯物を干すことはできず、ベランダに出ることもできない) のはとてもよいと思う。

イータには屋内と屋外両方の駐輪場、広大な駐車場 (⑳) がある。駐輪場は抽選で屋内か屋外か決めるが、屋外になってしまった寮生は自転車のサビとの戦いが始まるようだ。またイータは山に囲まれた場所にあるため、電動自転車でなければなかなかきつい。IRC でも、たとえば多摩センターや大塚・帝京大学の OK ストアに自転車で行く寮生は多いが、帰りが急な坂になるため、電動自転車を持っている寮生は多い。周りに坂が多い立地だからこそ、イータの寮生とは移動手段などの話で盛り上がりそうだ。駐車場はかなり広いが、入寮期間中は満車になってしまうようだ。普段は許可証さえあれば駐車場に車を停めることができる。



各ユニットにはユニットメイトと共有で使う冷蔵庫、冷凍庫 (㉑) がある。朝晩の食事が出るため、冷蔵庫、冷凍庫を使う寮生は少ないが、ユニットメイトが体を鍛えている人などだと冷凍庫に冷凍鶏胸肉がたくさん入っているのだとか。それだけでは収まりきらず、業務用の冷凍庫を追加で買って、そこにも冷凍胸肉が入っているなど、ユニットごとに特色が出るのが冷蔵庫の中身かもしれないと思った。

←㉑ユニットに置かれている冷蔵庫



←㉒各部屋にある換気口

イータの各部屋には湿気を逃す換気口 (㉒) があるのだが、そこを塞いでしまうと部屋の湿気が多くなり、部屋にカビが生えてしまうらしい。塞がないように寮生に伝えてはいるものの、塞いでしまう寮生が多く、よくカビの被害が起こってしまうようだ。IRC では近年になって各部屋のカビの問題が起こるようになった。洗濯物が外に干せないため部屋に干すしかないのだが、濡れた洗濯物の湿気で部屋やマットレスの裏にカビが生えてしまう事態が起こっている。



## <交流会>



IRCからは私含めて10人のRA学生が参加したため、イータの学生とIRCの学生を2つにグループ分けして交流会

(②③)をした。交流会に参加してくれたイータの学生は寮内イベントに関わっている人が多かったため、1チームは「イベントについて」話し合うグループ、もう1つは「RA活動をしていく上でのRAのモチベーション、新規RAは今後のRA活動で頑張りたいことについて」話し合うグループを作った。私はIRCでイベント企画、運営に携わっているため、イベントについて話し合うグループに入った。

←②③交流会の様子

## <イータのイベント運営の特徴>

- ・プロジェクトごと（ウェルカムプログラム担当チーム、夏祭り担当チームなど）に分かれて動いている。
  - イベント構想室という機関があり、そこは代表者の集まりのような存在。
  - ULやHL、RAはもちろん、イベントに関わりたい一般寮生も運営メンバーとして活動していく。
  - 運営メンバーの中で、企画班や装飾班、食事班などに分かれて、それぞれが独立して活動している。
  - それぞれのイベントにしっかりと時間をかけて準備ができる。(数ヶ月単位でイベントの準備をしていく)
- 
- ・イベント運営費はイータの建設会社から出ている。そのため、企画書や予算案はかなりしっかり作っている。(IRCは学生から集めた学費をもとに大学から予算が出ているため、飲食を伴うイベントでは参加者1人あたり300円以内に収めなければいけない)

<質問交換>

Q1. (イータ質問) IRC は留学生、一般寮生主催のイベントを開催できているが、彼らからのイベントアイデアやイベント開催の要望はどのようにすくいあげているのか？

A1. (IRC 回答) イベント RA にイベントアイデアを直接提案してくれる寮生、提案してくれた寮生と仲の良い RA 経由でイベント RA に伝わってくることが多い。

→IRC はセクションがはっきり分かれているからこそ、誰がイベント RA なのか、誰に相談すればいいのかわかりやすいというメリットはある。しかし、現在 IRC の RA が抱えている課題として、セクションの垣根を超えた活動ができていないことがデメリットとして挙げられる。セクションに分かれて活動していることは現在寮運営にマイナスに働いていると思っていたが、寮生にとっては、寮生のニーズに合わせた相談がしやすいというメリットがあることに気づけた。

Q2. (イータ質問) イベント RA 主催の公式イベントではなく寮生主催の個人イベントは、どのようにサポートしているのか？

A2. (IRC 回答) イベント内容といった大枠や日時などの詳細も、基本的にはイベント開催を提案してくれた寮生に任せている。イベント RA は企画書の書き方や、そのイベントの実現可能性があるのかどうか、当日のサポートなど、企画者のバックアップのみに務めている。

Q3. (イータ質問) (Q2 に関連した質問) 留学生主催のイベントへの言語サポートは？

A3. (IRC 回答) 日本語勉強中の留学生が多いため、留学生主催のイベントには基本的に英語でサポートしている。

→いくつかの国際寮を見てきて思ったことだが、英語系の大学にある国際寮でない限り、国際寮の共通言語としては日本語と英語が使われる。共通言語が1つに絞れないと英語か日本語のどちらかの言語が強くなる。たとえば IRC では圧倒的に日本語が強い。そのため、全体会議などで使われる主要言語は日本語で、英語はサブ言語としての位置になってしまう。英語の方が流暢な留学生の場合、コミュニケーションが日本語で進むコミュニティーに入りづらくなってしまう。留学生もすくいあげられるよう

な国際寮にするためには、共通言語を英語か日本語のどちらかにそろえるしか解決策はないと私は考えている。ただ日本の国際寮には日本語を学びたい留学生と、英語を学びたい学生が混在しているため、結果国際寮の言語ニーズが2つ存在していることになる。どちらのニーズもすくいあげるためには共通言語を作るという方法は現実的ではないだろう。

Q4. (イータ質問) イベントの告知はどのように行っているのか?

A4. (IRC 回答) イベント運営をしていく代によって異なるが、今年度は全寮生が入っている全体ラインで告知していた。そのほかにも、全寮生が参加する全体会議で申し込みの QR コードを出して告知したり、寮内のエレベーターにイベントポスターを貼ったりしていた。先輩の代では、各ユニットにイベントポスターを貼ったりしていた。今年はイベントの参加者がなかなか集まらないことも多くあった。その時は毎日全体ラインで「イベント予約して参加してくれたらお菓子の詰め合わせプレゼント」「イベントで豪華景品プレゼント」など、景品やお菓子を全面に押し出して寮生にアピールしていた。

→イータにも全体ラインのようなものがあるようで、そのラインを見る人は見るが、見ない人は全く見ないという課題、イベント告知は特に埋もれがちという課題を持っていた。IRC も全体ラインでイベント告知をすると埋もれがちという同じ課題を持っている。ポスターなどアナログな方法で告知したり、全体ラインでしつこいほど告知するといった地道な方法が大切だと、今年1年間イベント運営に取り組んできて気づいた。

Q5. (IRC 質問) IRC ではイベント企画、運営を全てイベント RA が担っているため、イベント RA の負担が大きすぎるのが課題だ。イータはどのように運営しているのか、どうしたら負荷を均等に運営することができるのか?

A5. (イータ回答) プロジェクトごとに運営しているから、イベントに積極的に関わるイベント構想室のメンバーだけではなく、他の RA や UL も巻き込んだイベント運営ができています。またラインでオンラインコミュニティーを築いていくことはできないから、来年度は Slack というツールを導入し、オンラインコミュニティーを構築していく。

→イータではオンラインツールを有効活用し、オンライン上でも積極的に活動してい

ることで負荷を少しでも軽くしているのではないかと思った。IRC では対面での活動がベースになっているため、来年度はオンラインツールも上手に活用していきたいと思った。

→ただ対面ベースの活動や、イベント RA が全て運営を担っていることは必ずしもマイナスに働いているわけではない。イータではイベント班が毎回解散しているため、継続したコミュニティーを築くことができず、イベント限りの付き合いになってしまうことも多いようだ。一方で IRC はたしかにイベント RA の負担は大きく、閉鎖的なコミュニティーになってしまっているが、大変なイベント運営を同じメンバーで何度も乗り越えているため、メンバーの仲は深まりやすい。

Q6. (IRC 質問) 具体的なイベント内容は？

A6. (イータ回答) (イータのイベントの写真を見せてもらった。)

留学生と日本人学生がうまく交流できるイベントとして、言語が必要ない音楽などのイベントも開催している。

→国際寮でイベント運営している身として、言葉を介さなくても誰もが楽しめるイベントを考えることはとても重要なことだと思う。IRC でも料理イベントやカラオケ、スポーツなど、言葉がわからなくても楽しめるイベントは特に留学生からの希望が多く、満足度も高い。ただ、それらのイベントはマンネリ化しやすくもあるため、積極的に留学生からもイベントのアイデアを集めていきたいと思っている。

<交流会まとめ>

交流会で話し合ったことは上の Q & A に書ききれなかったこともある。しかし交流会をとおして、イータのイベント運営の一番の強みは「イベントごとにテーマがしっかりと設定されている」ことだと思う。IRC では少なくとも今年度とはとにかく大人数が参加してくれるイベント作りに注力しており、毎月のイベントごとに特にテーマを設定していなかった。そのため、イベントをすること、とにかく参加者をたくさん集めることが目的になってしまっており、寮生にもメンバーにも「何を目的、目標とした」イベントなのか伝わりきっていなかったのかもしれない。一方でイータは毎回プロジェクトごとにテーマを設定し、ラインで共有しているため、運営に関わるメンバーも共通した目的を持ってイベント企画、運営に携わることができているのだろう。イータも IRC も来年度の新入寮生を迎えるウェルカムイベントに向けて動き出しているが、イータのウェルカムイベントのテーマは「イータでの生活に期待感を持ってもらうこと」だ。IRC もイータをならい、今動き出しているウェルカムイベントからしっかりとテーマを決め、それをメンバーや参加者と共有し、そのテーマを達成できる

ようなイベントを作り上げていきたい。



#### <昼食>

交流会に参加したイータの学生と一緒に昼ご飯を食べた。イータの昼食を食べるグループと、イータの近くにある海鮮丼の飲食店「味処まるたか」に行くグループに分かれた。私は「味処まるたか」を選んだ。

←⑳まぐろ唐揚げ定食 ¥1,400



#### ←㉑昼食の様子

私はまぐろの唐揚げを初めて食べた。とても柔らかく、おいしかった。ボリュームも多く、かなり満腹になり幸せだった。「まるたか」はSFC生に限らず、SFCの教授などもよく利用するお店らしい。SFC生に愛されてきたお店なのだと思う。中

大でいうところの「うまんぱりわる」のような存在だろう。テスト終わりのご褒美として「まるたか」にご飯を食べに行く学生もいるのだという。一緒にご飯を食べに行ったイータの学生が「まるたか」でアルバイトしており、お店の方が私たちに刺身をサービスしてくれた。刺身もおいしかった。サービスしてくれたお店の方、ありがとうございました。今回は唐揚げを食べたが、次は海鮮丼も食べてみたい。



<活動場所 6ヶ所目>

東洋大学 AI-House (以下、アイハウスと記入する)

<活動日>

2025/02/06 (木)

<IRC からのアクセス>

中央大学・明星大学駅～多摩センター駅 (多摩モノレール)

京王多摩センター駅～新宿駅 (京王線)

新宿駅～赤羽駅 (JR 線)

赤羽駅から徒歩 10 分程度

<当日までのスケジュール>

2025/02/04 (火) 17:30～18:00 オンラインでアイハウスの代表者と事前ミーティング

<当日のスケジュール>

17:10 JR 赤羽駅北口改札前で IRC 学生と集合

17:20 駅まで迎えにきてくれたアイハウスの代表者と合流

17:30～17:50 アイハウス見学

17:50～18:25 アイハウスの RA と交流会

18:30～19:10 アイハウス RA の会議に参加、その後解散

#### <活動場所選考理由>

IRC とアイハウスの共通点として、外部機関「GiFT」(以下、ギフトと記入する) という、RA 研修などに携わる会社が国際寮に関わっているところと、フロント業務を nasic (学生情報センター) という外部機関に委託しているところだ。ギフトからはアイハウスの活動の様子も聞いており、IRC とそれほど年数も変わらないアイハウスがどのように運営されているのか興味を持った。また、IRC では 2024 年度の春からギフトに関わるようになったが、まだ RA とギフトがどのように関わっていけばいいのか手探りな部分もある。アイハウスの RA はどのようにギフトと関わっているのか、実際にアイハウスの RA と交流して知りたいと思った。

#### <アイハウス概要>

- ・ 2022 年 3 月オープン→2025 年で 4 年目に突入する。
- ・ 授業期間中の平日には、朝晩食事つき。
- ・ 寮生数は IRC とほぼ同じ、定員 292 人。
- ・ 日本人学生よりも国際学生の方が多い。
- ・ RA は統括係 (寮全体のマネジメント)、イベント係 (イベント企画運営)、U & AI 係 (週に数回、小さなイベントの企画運営)、装飾係 (寮内の装飾)、インスタ係 (インスタ運営など) の 5 つの係に分かれて活動している。

以下のリンクは、IRC からアイハウスの RA に向けて質問一覧である。

[https://drive.google.com/file/d/1XrySXF3tjRjz\\_wwqHB-v4W4tm96KpDtC/view?usp=drivesdk](https://drive.google.com/file/d/1XrySXF3tjRjz_wwqHB-v4W4tm96KpDtC/view?usp=drivesdk)

## <活動報告>

寮内設備、交流会、RA 会議の順に記述していく。

アイハウスは赤羽駅が最寄りなだけあり、アクセスはかなり良かった。赤羽駅は JR だけではなく多くの路線が通っており、そのほかにも新宿や池袋までも近いので、生活するうえでかなり便利な場所にあると思う。

アイハウスまでの道のりで途中短いが急な坂がある。しかしその坂さえ越えてしまえば後はほぼ平坦な道である。



↑①貸し出し自転車



↑②イベントで使った鳥居



↑③食堂

アイハウスでは貸し出しの電動自転車 (①) が 5 台あり、寮内のオフィスで手続きさえすれば誰でも借りることができる。駅近のため、自分の自転車を持っている人は少なかった。IRC では近くの大きい駅に行くために自転車を使う寮生が多く、半期もしくは 1 年間の短期滞在の交換留学生でも自転車を買う場合もある。貸し出し自転車があれば IRC でもわざわざ自転車を買う必要がなくなり、さらに電動自転車であれば IRC の周りの坂も楽に登れてしまうだろう。自転車盗難や故障の問題、FO の開室時間外の対応が難しいが、IRC にも貸し出し自転車があれば、寮生の生活も少しは楽になるのではないかと思った。

アイハウスの入り口入ってすぐ、いちばん目立つのは「あいほうす神社」と書かれた赤い鳥居 (②) だ。イベントで使った鳥居を入りに置いているようだ。天井まで届くくらいの大きさの鳥居を作れる技術が素晴らしく、日本っぽさを感じられるものが国際寮にあるのは留学生にとって嬉しいのではないかと思った。

食堂（③）では授業期間中の朝晩食事が提供されている。大学生になりバイトなどで夜遅くまで帰ってこれない学生は多いが、アイハウスでは事前連絡すると、食堂営業時間内に帰寮できず食べられない食事を弁当という形でとっておいてくれる。これなら食事の心配をせず、寮生は夜遅くまで活動できる。食事付きの学生マンションや寮に住んでいる友人は食堂営業時間内に食事を食べられないことが多く、提供される食事をしっかりと食べるように親によく注意されるという。事前連絡で食事がキープできる仕組みであれば、親も子どもの食事の心配をせずに安心して送り出せるだろう。また、留学生の中にはベジタリアンの寮生や、宗教上牛肉や豚肉を食べない学生もいる。国際寮だからこそ直面する食事の問題だが、通常メニューの他にベジタリアンやハラルの食事もしっかりと準備されている。日本人学生よりも圧倒的に国際学生の方が多いアイハウスだからこそ、食事面でもそれぞれの生活スタイルや宗教の配慮がされていると思った。



↑④共有キッチン外観



↑⑤共有キッチン



↑⑥フロアごとのキッチン

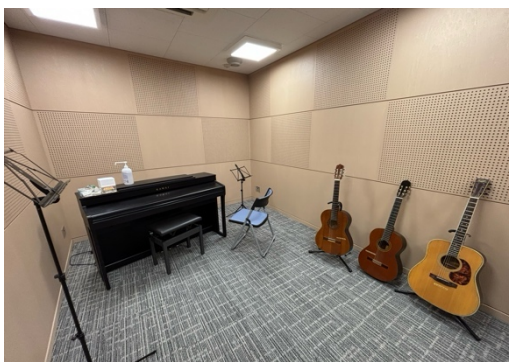
男女共有フロアにはイベントなどで使われる事前申請式のキッチン（④⑤）がある。④の写真からよくわかるが、和をモチーフにしたデザインになっている。キッチンは事前申請だが、キッチンの周りを囲むようにある椅子や机は、もちろん申請なしで誰でも使うことができる。アイハウスはフロアごとに男女の生活ゾーンが分かれており、各フロアにもキッチン（⑥）がある。



↓⑦多目的室



↓⑧音楽室



↓⑨卓球台完備



アイハウスに見学に行き、IRC に比べて圧倒的に娛樂ルームが多いと思った。各フロアに多目的室（⑦）があり、この部屋にはプロジェクターや壁にホワイトボードがあるため、もちろん会議や勉強にも使えるが、映画などを見たりすることもできる。また、男女共同スペースには音楽室（⑧）と、卓球台のある片方の壁が鏡になっている部屋（⑨）がある。音楽をやっている寮生は音楽室を利用していつでも楽器が弾ける。壁が防音になっているため騒音の問題も起こらないだろう。IRC でも電子ピアノを共有スペースに置きたいという意見が挙がっているが、直面するのは騒音問題だ。IRC には音楽室がなく、男女共同エリアにはホールしかない。そのため、電子ピアノを置いたとしても厳格なルール作成と徹底したルール周知をしなければ電子ピアノを置くことは実現がなかなか難しい。また卓球台などといった娛樂用品がなく、男女共同で使えるのはカードゲームやボードゲームだけだ（男女分かれて、であれば、男子棟にはエアロバイクの置かれた部屋や、男女ともにテレビのあるシアタールームはある）。卓球台、ビリヤードなど、男女関係なく皆で使える娛樂用品があれば、寮生はさらに楽しく過ごせるのではないかと思った。



←⑩各ユニットの位置を表すマーク

各ユニットには⑩のようなマークがあり、緑色の出っ張りが各ユニットの位置を表している。一目見るだけで各ユニットの位置が建物のどこに位置しているのかわかる。IRC に2年間住んでみて気がついたことだが、寮生は自分の部屋がIRC のどの位置にあるのか話すことがよくある。IRC は主に、薬局のウエルシア、モノレール側に窓を向けた比較的眺めのよい部屋と、森の方に窓を向けた部屋の2つに分けられる。私たちは「ウエルシア側（もしくはモノレール側）」「森側」と表現することが多いが、アイハウスのような⑩のマークさえあれば、自分のユニットだけでなく他の寮生のユニットの位置



も直感的に理解できるようになるのではないか。⑩のようなマークはどこか近代的なイメージを与え、おしゃれだと思った。



←⑪モデルルーム

モデルルーム (⑪) にも案内してもらった。作りや広さはIRC とほぼ変わらない。しかし、備え付けの家具はアイハウスの方がグレードが高かった。たとえば机の前の壁に設置されている3段の棚。これはIRCにはない。その他にも、ベッドの下に収納できるスペースがあることはIRCも同じだが、収納ケースが元からついているのはアイハウスだけだ。また扉付きの棚がある。IRCにも棚はあるが、扉はついていない。扉があることで中に入れたものの生活感が隠せると思う。アイハウスは部屋もどこか洗練されたイメージを感じた。



←⑫団らんスペース 1

アイハウスの住居フロアの特徴として、各ユニットに仕切りがないこと(全体的に建物の仕切りは少ない)、和を連想させる団らんスペース(⑫⑬)がたくさんあること、ソファや椅子などがたくさん置かれていることだと思った。



←⑬団らんスペース 2

仕切りがないことで開放感を与え、さらにユニットの扉を開けたら誰かがいるというように寮生同士のコミュニケーションも促進できるだろう。また団らんスペースや座れる場所がたくさんあることで、これも寮生同士のコミュニケーションを促進できると思う。



←⑭アイハウスの中庭

アイハウスの建物を見ていちばん驚いたことは、建物の造りがデンマークで見学した学生寮 Tietgen とそっくりだったこと

(⑭⑮)だ。中庭を囲むように建物が建っており、壁よりも大きな窓の方が建物の大部分を占めているのではないかというくらい窓が多い。また、⑭の写真のように、建物が凸凹でまるで宙に浮いているかのようだ。飛び出ている部分はちょうど多目的室などが位置する。このように窓が大きいことで日差しが入ったり開放感を与え、全体的に明るいイメージの寮になる。また、四方八方が窓に囲まれていることで、フロアの違う寮生同士が窓をはさんで手を振り合うこともあるらしい。夏になると中庭 (⑮) でおしゃべりをする寮生の姿も見られるようだ。



←⑮凸凹に飛び出た部屋

写真はないが、会議室や RA だけが利用できる RA の活動部屋もあった。RA の部屋には、研修で皆のアイデアを出し合った紙や、RA が目指す目標を書いた紙がたくさん貼られていた。IRC では RA の活動部屋がないため、会議をするときは中大の教室を借りたりしている。また、研修で使った紙もイベント備品を入れた倉庫にしまっているため、自分たちが何を目標して RA 活動をしているのか常に見ているわけではない。アイハウスの RA 専用の部屋のように、研修で使った紙などをずっと貼っておける部屋があれば、常に視覚でも目標を意識しながら活動できるのではないだろうか。また寮生に聞かれてはいけない内容（特に US には寮生の生活の情報などナイーブなものを扱う）の話し合いであっても、RA 専用の部屋があれば場所に困らずに会議できるだろう。IRC に新たに RA 専用の部屋を作ることは難しいかもしれないが、大学内のどのスペースでもいいから RA 専用の部屋ができれば、RA 活動の質のさらなる向上につながるのではないかと思う。

## <交流会>

交流会では主に、IRC が事前にアイハウスと共有した質問一覧をもとに進めた。アイハウスからは、RA が5つの係からそれぞれ1人ずつ参加してくれた。

Q1. (IRC から質問) アイハウス RA とギフトはどのように関係性を作っていたのか? (IRC も 2024 年度からギフトが導入されたが、中大とギフトはまだ関係性を十分に築けておらず、正直、ギフトに対する不信感も高まっている。それを打破する方法を知りたい)

A1. (アイハウス回答) アイハウスでは1年目からギフトが寮に関わっていたため、ギフトの存在を当たり前のように受け入れていた。はじめから寮に関わっていたか、それとも途中から参入してきたかの違いだと思う。IRC はまずは関係性を築くことが必要だと思うが、無理して関係性を築く必要もないと思う。

→IRC はギフトを導入してまだ1年目ということと、既に寮運営の基礎ができあがった状態での参入になったからこそ、RA がギフトを受け入れられないという心理も働いているのだろう。まだ1年目、長い目で見ても有効な関係性を築いていけるように、ゆっくりと距離を縮めていきたいと思う。

Q2. (IRC から質問) ギフト研修の内容と RA の関わり方、それに対する RA の満足度は?

A2. (アイハウス回答) ギフトが型を示して、そのうえで RA が主導して内容は全て考えている。救急車の呼び方など、危機管理についての内容は毎回必ず研修に入れている。最初は少人数で土台を考え、次第に内容ごとにグループがいくつかに分かれていくと RA が振り分けられていく。グループごとに決めた内容を他のグループからフィードバックをもらってさらにレベルアップしていつている。RA の満足度に関してだが、そもそも RA が研修を「ギフト主催の研修」と捉えておらず、「RA 自身が作っている研修」という認識が強いため、満足度に関してはそれほど気にしていない(のではないか)。RA が主導していくからには責任を持って最後までしっかりとやり遂げることは意識している。

→今年度は IRC の RA が求める研修内容とギフトが作ってくれた研修内容が乖離していたため、来年度からはまずは各セクションの RA 長がセクションメンバーの意見も

くみ取りつつ研修に携わることになった。IRC もアイハウスみたいに、いつかは RA 主導で自分たちが求める研修を作っていけるようにギフトから RA へ少しずつ移行していければいいと思う。

Q3. (IRC から質問) 活動にモチベーションの低い RA がいた場合、どのように対応しているのか？

A3. (アイハウス回答) 統括係が各係と前期後期の年 2 回面談をしている。面談をすることで各係がしっかりと活動できているのか明らかになる。統括係の面談を通して改善されなかった場合、大学職員と面談してもらうことになる。

→IRC は RA 内で解決というよりも、すぐに国際センターの方に連絡がいき、国際センターが対応することになる。これは IRC の RA が自分たちで他の RA に注意することを避けているからだろう。まずは RA 同士が裁きあうような仕組みは興味深い。加えて、お互いに監視し合うことで競争心の刺激やさらなる成長につながるのではないかと思う。

Q4. (IRC から質問) RA は全員 RA 会議などに参加しているのか？

A4. (アイハウス回答) はい。帰国やボランティアなど特別な理由がない限り参加必須になっている。給料ではないが、RA としてお金をもらいながら活動しているような感覚なので、それで参加必須のものに出席していなければ RA をクビになると思う。

→RA の意識が全然違う…。

Q5. (IRC から質問) 統括係はどのような活動をしているのか？統括係とそれ以外の係で上下関係はできてしまっていないのか？

A5. (アイハウス回答) 活動内容は一言でまとめると寮のマネジメント。統括係はただマネジメントをするだけで、どの係が偉いといったような上下関係はなく、全ての係はフラットな関係である。統括係が他の係の活動を一步引いた目で見ているからこそいろいろ気づくことがあり、5つの係の中で統括係がトップだと思われがちだが、そうならないように常に気をつけている。いくなれば寮内に警察官が出ないように（寮生や係を勝手に取り締まるような存在）日々努力している。

Q6. (IRC 感想) 寮長など誰かリーダーがいない状態でどの係もしっかり活動できているのが本当にすごいと思う…。

A6. (アイハウス回答) どの係も元からしっかりと活動しているというものはある。そのほかにも毎回の RA ミーティングの最後に必ず各係から活動報告してもらっている。それによって各係が何をしているのかよくわかり、かつ周りの目もある状態になる。アイハウスでは寮を初年度から引っ張ってきた人が上下関係を好まず、誰もがフラットな関係性を築けるように努力してきたため、今 RA は学年関係なく、皆タメで話している (そもそも学年を気にしたことがない)。そのような関係性を今まで繋いできたことで新しく入った RA も既存 RA についてきてくれている。

交流会後、毎週開催される RA ミーティングにそのまま参加させてもらった。ミーティングを通していちばん驚いたことは RA のオンとオフの切り替えだ。ミーティングは最初に机を丸型になるように並べ、互いの顔を見合わせた状態でチェックインを始めた。チェックインはギフトに由来するものだが、1人ずつ今自分が思っていることや今日の出来事など (話す内容はなんでも OK) を共有していく。チェックインを通し、硬い雰囲気になりがちなミーティングの空気が和らぐ。しかしチェックインを終えて議題に移ると、その空気は一変し、とても真面目な空気感の中議題が進められる。そして最後に各係からの活動報告をし、ミーティングは終了となる。毎回ミーティングの後にはコアタイムと呼ばれる、週に1時間必ず係活動をする時間が取られる。IRC の会議と違う点は、ミーティングで誰でも発言できる雰囲気があるところだ。チェックインでまずは RA の雰囲気を和やかにしてから本題に入るところもよいと思う。また皆顔を合わせながら会議をするだけで、全く上下関係を感じさせない会場になるのだ (IRC の RA 会議では RA がセクションごとにまとまって座り、なんとなく RA 長が前、その他の RA が後ろに座るような雰囲気ができあがってしまっている)。もちろん席順などは決まっていないため、その日の気分などに合わせて座ることができる。そのほかにも、発言したいことや気になったことがあれば皆手をあげて自由に発言している。その空気を作り出しているのも、互いに顔を見ながら話せるという空気感にも理由があるのだろう。さらに、ミーティングの最後の活動報告は実際に今やっていることは言うが、その詳しい内容については話していない。IRC ではより詳しくセクション報告をしようと内容まで話しすぎてしまい、セクション報告だけで会議時間の半分の30分程度とられてしまうことがある。あまりにもセクション報告の



時間が長すぎたり、RA 出席の会議で（RA が毎月参加必須の会議はだいたい毎月 2 回程度ある）何回も同じ話を聞くことになってしまい、RA にとって新鮮味に欠けた内容の会議になってしまっているのだろう。詳しい内容を話さないことでミーティングがテンポよく進み、会議時間も短くすみ、RA の負担も少なくなるのではないかと思った。

<アイハウスまとめ>

- ・ RA 内で上下関係がなく、誰かが偉くなりすぎないように努力していた。
- ・ 寮長など直接的にリーダー的な存在が寮内にいなくても、5 つの係それぞれがしっかりと活動している状態を作り出しているのが素晴らしいと思った。
- ・ 柔らかい雰囲気が始まり、でもしっかりと真面目な空気での議題に入るミーティングのやり方は IRC も学んでいきたい。

#### 4. 活動全体を通しての感想

今年からイベント RA 長という IRC を運営する立場になったことで、IRC の課題にばかり気を取られてしまっていた。しかし今回の活動で5つの国際寮を見て他大の国際寮と IRC を比較していくと、もちろん IRC の課題も浮き彫りになったが、「5年目にしてはうまくいっているな」と思えることもたくさんあった。活動する前はどこかの国際寮の制度をそのまま真似すれば IRC はさらによくなっていくのではないかと思っていたが、それぞれの国際寮が目指す理想やそもそもの体制が IRC とは異なるため、どこかの国際寮を丸パクリして IRC を発展させていくことはできないことに気がついた。しかし、今回の活動では5つの国際寮の良いところも課題も知ることができたため、その中で良いところや IRC に合いそうなものを今ある IRC の良いところと組み合わせ、IRC をさらにバージョンアップさせていくことはできそうだったと思った。

活動中には「わざわざ現地まで行って見学してくる必要があるのか」という声もあり、現地まで足を運んで交流会をする意義を見失いかけたこともあったが、活動を終えて、実際に現地に行ってホームページやパンフレットからはわからない寮生活のリアルを感じたり、交流会で顔を合わせて話すことで RA の熱い思いを全身で感じることもできたと思っている。

今回の活動を通し、次は「国際寮間の交換留学制度」を作りたいと思った。寮見学に興味があったり、RA 活動をさらにレベルアップさせたいと思っている RA を他の国際寮に派遣し、数ヶ月単位で実際に寮生活や RA 活動を経験することで、今回の寮見学よりもさらに深い学びを得られるだろうと考えた。協定国際寮間で大学の授業の単位変換などがうまくいけば、実際にその土地で学びながら寮生として経験できること、感じられることがたくさんあるのではないかと思う。

その土地で実際に寮を見て、良いところや課題を聞いて、寮生や RA と話すことは非常に有意義で、今まで IRC しか知らなかった私にとって新たな発見がたくさんあった。貴重な経験をさせていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいだ。

最後に、この研究は、他大学の一寮生が突然連絡したにも関わらず、寮見学や交流会の実施を受け入れてくださった方々の協力なしには絶対に成り立たなかった。寮見学や交流会を受け入れてくださった The Tietgen Residence Hall、早稲田大学 WISH、立命館アジア太平洋大学 AP ハウス、慶應義塾大学 H VILLAGE、東洋大学 AI-House の関係者、RA の皆様をはじめ、計画実行に向けてご指導いただいた水上雅晴先生、青木滋之先生、文学部事務室の皆様、全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。